

GUNDAM

MS HISTORICA

ガンダム
MSヒストリカ

ガンダムの世紀

皆河有伽

第1回 Zの鼓動

GUNDAM SIDESTREAM

ガンダム・サイドストリーム

第1回 モビルスーツの1エーション 1

GUNPLA Revelations

~ガンプラ30年の歩み~

第1回 ガンプラのニュースタンドを
開拓したHGUC

ニュータイプ専用機特集

驚愕の鬼神

RX-78NT-1 アレックス

MRX-009 サイコ・ガンダム


MRX-010 サイコ・ガンダム Mk-II

RX-93 Vガンダム

「ガンダムの世紀」第4回
宇宙を翔る蒼き翼、
Zガンダム誕生!!

驚愕の鬼神





ニュータイプ・パイロットとガンダムとの結びつきは、
アムロ・レイがRX-78-2ガンダムに乗り込んだその日から
すでに運命づけられていたのかもしれない。
選ばれた戦士、ニュータイプだけが搭乗を許されたガンダムの
驚くべき全貌に迫る——!!

RX-78-2 GUNDAM
MRX-009 PSYCHO GUNDAM
RX-56 VIGIL

ニュータイプ用に進化した

一年戦争の戦場で生まれた新たな伝説。ニュータイプ エースパイロットの代名詞的な存在としてとらえられた彼らニュータイプは、MSの進化に拍車をかけた。地球連邦軍が遠り上げたニュータイプ専用のガンダムは、歴史にどんな影響を与えたのだろうか？

構成・文：石井 誠

初のニュータイプ専用機 誕生の背景

一年戦争中期より、フラナガン機関を設けるなどしてニュータイプの研究を重ねていたジオン公国軍に比べ、地球連邦軍のニュータイプへの認識は人知に達しており、サイコミュを使った、惑応波による戦場の把握能力や兵器の遠隔操作能力という部分には、当然まだ研究が到っていなかった。事実、ニュータイプの実在にすら懐疑的だったという U.C.0079年9月以降、行健ましい戦果をあげていたRX 78-2ガンダムのパイロット、アムロ・レイに対しても、“反応速度の速いパイロット”という程度の認識だったともいう。従って、新型MSとして開発されていたRX-78NT-1 アレックス



脚部大型スラスターなどにより 機体外観には変化が見られる。

スにも、サイコミュは搭載されていなかった。そんな中で、戦場を重ね経験を積んだアムロ・レイが、MSの操縦時に、自身の反応速度に機体が十分に追従しないとの報告を行う。これがMSという機動兵器が、次のステップに向かう進化のきっかけとなった。機体の追従性を重視し、マグネット・コーティングを装備したガンダムとして開発の進んでいたアレックスが、ニュータイプ専用機として調整し直されることが決定したのだ。かくして同機は、アムロ・レイのもとに届けられることになった（現実にはそれは叶わなかったが）、ちなみにアムロ・レイの変機であるRX 78-2ガンダム自体にも、アレックスのテスト結果を踏まえてマグネット・コーティング処理が施されている。これはシオンから接收したソロモン基地での応急処置的なものだったが、それでもガンダムの追従性は、人知に向上したという。

一年戦争後のMS開発に 与えた大きな影響

当機の開発にあたっては、陸戦型ガンダムをベースに、RX 78-2ガンダムのトリアルデータをフィードバックし、マグネット・コーティングの効果をもより効率的に反戦できるように、駆動系の再設計がなされた。さらに、ジェネレーター出力の強化、スラスターの大形化とバーニアの増設によ



大空に舞い上がる機体の姿は、試験的試作機での強化を促すことになった。

る推力、機動性の向上が図られ、当機はRX 78-2ガンダムを大幅に凌ぐ性能を有することとなる。

さらに、向上した性能に對し、パイロットと機体の一体感を高める、全人型モニターやリアシートを、MSとしては初めて導入している。開発段階では、アムロ・レイというニュータイプのために、最新技術の数々が惜しげもなく投入されていた。量産化を前提としない高性能機として完成したアレックスだったが、その仕様は、本来の“ニュータイプ専用機を造る”という発想とは大きくかけ離れたことは、その後のニュータイプ専用機開発の様子を見れば明らかだ。

しかしアレックスが示した高性能機のある方は、戦場において主力となる量産型MS開発に大きな影響を与えていくことになる。アレックスに注入された技術の数々は、遠くない宇宙世紀の未来における、MSのスタンダードな仕様へとつながっていくのだ。

オーガスタのMS群

アレックスの開発は、北米のオーガスタ基地で行われた。オーガスタ基地では、兵士のメンタルヘルスを研究する部署があり、連邦軍においてニュータイプの特性は、ここで検証されたとされる。また、オーガスタ基地は独自のMS開発も行うっており、ジャブローで開発された機体とは異なる形状のMSを量産している。それらは後に、オーガスタ系と呼ばれることになる。量産MSのラインとして存在し続け、次世代MSにも影響を与えていた。

RG-79G ジム・コモンド

オーガスタ製の後期生産型ジム。基本設計はジムと共通だが、射撃精度を上げた外装が採用されており、通常のジムとは外観が異なる。また、機体各部の形状はアレックスとよく似ている。



RG-79N ジム・カスタム

エースパイロット用ジムの上位機種。アレックスの開発で得たデータをもとに造られた。高性能な量産機で、機体各部の形状はアレックスとよく似ている。



RG-79Q ジム・クウエル

ジム・カスタムをベースに開発された。テクニクン用強力な機体。後に、RX 78-2ガンダムと開発することになる。



ガンダム

SPEC

全高 18.0m
 全重量 40t
 フォースター出力 1.42kW
 スラスター推力 174,000kg
 (35,000 × 2, 7,000 8,000 000)
 装甲材質 ルナ・チタニウム合金
 センサー有効半径 5,000m
 武装 電撃バズーカ × 2
 胸部マシンガン ガン × 2
 ビーム・サーベル × 2
 ビーム・ライフル
 ハイパー・バズーカ
 シールド

イラスト・小笠原智史

RX-78NT-1 ALEX

アレックスの設計思想

“ニュータイプ専用”をキーワードに、優れたパイロットに対応するための機能をふんたんに取り入れ、MS新時代の基礎を作ったアレックス。次世代のMSに多大な影響を与えた、先見性溢れる技術や構造とは？ 第2世代機への構造的な役割を担ったとすら言える、この機体の全貌へと迫ろう。

マグネット・コーティングの採用

駆動部の反応を高める画期的な新技術、マグネット・コーティング
アレックスには設計段階からすでに、その採用が決まっていた

RX-78ガンダムでは、駆動部のフィード・モーターに、単磁極の素粒子を塗布し、その反発を利用して摩擦の軽減を行い、負荷を軽減させる“マグネット・コーティング”処理が行われた。しかし、当然ながらこの処理の実施を前提とした設計が行われていれば、より効率のいい駆動が可能となる。そこで、アレックスの駆動部は、マグネット・コーティング対応型の仕様にも再設計されており、RX-78以上の機体追従性を発揮した。

次世代に向けたインターフェースの強化

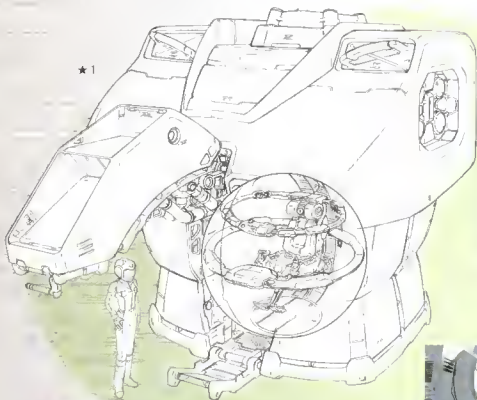
パイロットの反応速度に呼応し、パイロットとMSの一体化を促す
インターフェースへの模索は、新しいコクピットを生み出した。

ニュータイプ・パイロット対応のMSを再設計するにあたり、コクピットのシステムも一新された。それまでの標準的な、前面と側面の3面のモニター・システムを廃し、代わりに、パイロットを包み込むように配置したモニター・システムを、試験的に採用している。シートはこのコクピットの中に、まるで浮かんでいるかのように設置されている。この仕様は、以後のMSコクピットのスタンダードとなるものだ。また、新型の教育用コンピュータ、NICNシステムも搭載している。これはガンダムに搭載されていたものを、大きく上回る性能を有している。



カメラやセンサーなどのフェイス部は、ガンダムのものより小型化された新型が搭載された

★ 1

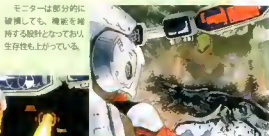


全天周モニターとリニアシート

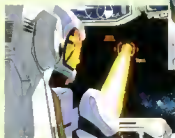
球状の、死角のないモニターを實現、映像にはわん、C.Gによる補正が施されている。シートは、リニア・レベル上に置かれた「床」等には磁気が浮いている。支柱の先に設置されており、これをコンピュータ制御し、加速や制動によるパイロットへの負荷やストレスを軽減している。またコクピット・ブロックは緊急時の脱出用バルブとしても機能し、パイロットの退避率を上げている。



全天周モニターは周囲の状況把握がしやすく、操縦性も向上



モニターは部分的に破壊しても、機能を維持する設計となっており、生存性も上がっている。



コクピットは、過去の戦術データを反映し、ニュータイプとしても使用できる

スラスター強化による機動性アップ

アレックスのさらなる試みのひとつが、機動性の強化。スラスターの増強と増設によって、機動兵器としての機能向上をめざしたのだ。

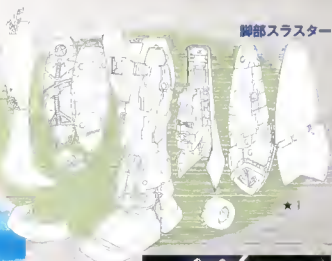
アレックスは、追加装甲を行うフルアーマー・オペレーションに対応しながらも、RX-78ガンダム以上の機動性を有することが求められていた。重量のかさむチョバム・アーマー装着時にも高い機動性を保持できるように、推力のアップが検討され、結果、ジオン系のMSに多く見られた「脚部自体を巨大なバニーアユニットにする」というコンセプトを採用する。腰下に大型のスラスターとプロペラント・タンクを増設することで、追加装甲装着時の機動性の維持、さらに装甲を升した際のさらなる機動性の向上を実現。また、空間戦闘時の機動性を上げるため、機体各部には多数のアジン・モーターも配置。こうした発想も、以後のMS開発のスタンダードとなっていった。

脚部スラスターの機転を阻害しないよう、ノズル部を含む脚甲の部分的に開くようになっている。



脚部スラスターにより、ダム系MSのホバー走行のように、地盤を滑走するような高速移動が可能となった。

脚部スラスター



大型のバックパック

メイン・スラスターを配するバックパックも大型化。その結果、RX-78-2ガンダムに比べ、機動性や運動性が大幅に向上している。



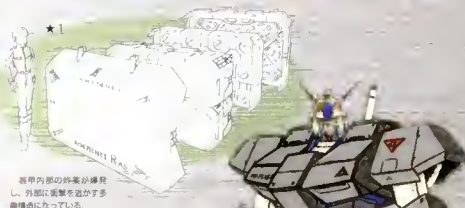
フルアーマー構想に基づいた チョバム・アーマー

アレックスは、地球連邦軍による、MSの追加装甲計画における実験機という側面を持っている

アレックスという名称は、RXと、MSのフルアーマー・オペレーションの1プロジェクト「装甲機体試験 (Armor Layered Examination = ALEX)」を掛け合わせたものと言われている。アレックスには、破壊されることで本体への衝撃を吸収するチョバム・アーマーが装着されており、これは、フルアーマー・オペレーションの一種として開発されていた。この機体型の追加装甲の運用実験も、ニュータイプ対応機へのデータ収集と同時に進められていたと思われる。



耐衝撃性は非常に高く、MSが繰るマシンガン攻撃などは軽く受け流し、機体の壊れのような大きな影響でようよく反応した。



装甲内部の炸薬が爆発し、外部に衝撃を逃がす多層構造になっている。

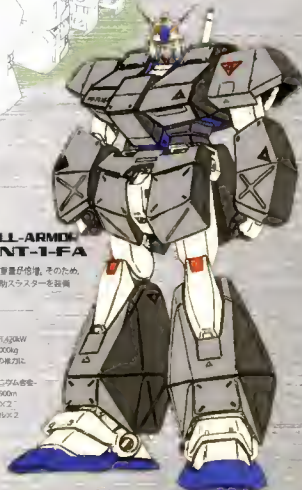
リボ・コロニーでの実験機は、チョバム・アーマーを装着、ガンダムにペイントを施し、試走を繰り返した。

ALEX FULL-ARMOR RX-78NT-1-FA

アーマー装着時は重量が倍増。そのため、アーマー自体にも補助スラスターを装備

SPEC

全高 18.0m
全幅 9.5m
ジェネレーター出力 1,630kW
スラスター推力 215,000kg
(アーマー装着機体版の推力は、7000×6を過す)
装甲材質 アルミ・チタニウム合金
センサー 対空/対地/5,000m
武装 光束/66mm対空2
ビーム・サークレット



Weapons of RX-78NT-1

機体の再設計に合わせて、内蔵武器の増強や新技術を導入した各種武装など、アレックスには装備に関しても新たなものが用意された。

実弾兵器

頭部バルカン砲

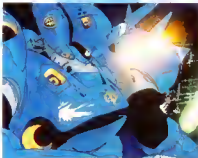
地球連邦軍MSの基本装備である、2門の頭部バルカン砲。RX-78系ガンダムやジムと同じく、口径が60mmのものを使用しているが、弾頭の形状や材質、炸薬の異なるものを採用しているとの説もある。



メイン・カメラやデュアル・センサーには新たなハーツが使用され、合わせて機体バルカンも新仕様のものが搭載された。

90mm ガトリング・ガン

腕部に搭載された新たな固定武装。換行武器の消耗や損壊による戦力の低下を補うための追加武装であり、実戦でも有用性が実証された。だが整備性やコストの問題で以後のMSに採用されることはなかった。

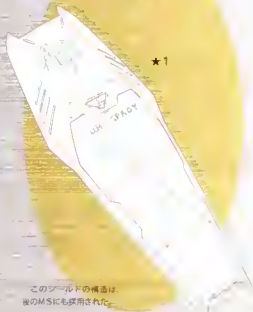


胸部フィールト・モーターの小型化によって生じた余剰スペースを利用した固定武装で、両腕に内蔵。

防御装備

シールド

ガンダムやジムのものとは異なるものを用意。チャップ・アーマーと同様の構造を持ち、さらにはオーガスタ基地独自の副ビーム・コーティングが施されていたが、リボー・コロニー到着時には装備されていなかった。

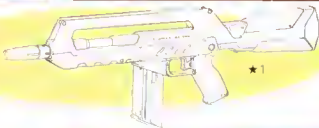


このシールドの構造は後のMSにも採用された。

ビーム兵器

ビーム・ライフル

従来のRX-78用のものに比べ出力アップが図られた。新型収束装置の採用により貫通力も高くなっている。銃身の下にはマガジン状の部品があり、マガジンを交換可能なタイプとして開発されていたと思われる。



ビーム・サーベル

これまでのものと外観的に大きな変化はないが、内部構造が大きく変化。従来のものは、バックパックの左右に対応してエネルギー供給装置の位置が違っていたが、左右共通のものに変更されている。



RX-78NT-1 アレックス

闘いの記録

本来のパイロット、アムロ・レイのもとに届けられる前に、ジオン公国軍に存在を察知され、突如と余剰とされたアレックス。結果、わずか2度の闘いで大破してしまっ……。その貴重な戦歴の記録を紐解く。

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世紀 0079年1月3日	一年戦争、勃発
12月10日	RX-78NT-1、 サイド8にてテスト開始
12月19日	RX-78NT-1、 公国軍MSケンパファーと 交戦、これを撃破 REC
12月25日	RX-78NT-1、 公国軍MSザクII改と交戦、 相討ちとなる REC
0080年1月1日	一年戦争、終結

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD
TIME: U.C.0079.12.19
PLACE: サイド8、リバー・コロニー
ENEMY: ジオン公国軍MS、ケンパファー
パイロットはミハイル・カミンズ

ジオン公国軍特殊工作部隊・サイクロプス隊は、強襲型MSケンパファーでアレックスを強襲する。アレックスは、激しい攻撃にさらされ、ついにはチェーン・マインの強力な爆発に巻き込まれた。しかし、吹き飛ばされたのは追加装甲のみ。爆炎の中から、真の姿を現す。圧倒的な攻撃力で、同時にケンパファーを撃破するアレックス。ガンダムの力を見つけたのだ。

ケンパファー強襲

秘められていたガンダムの脅威



全身から射れ落ちるチャーム・アーマー。駆けるガンダムの力が解放される。

ガトリング・ガンとの砲撃に負かれたケンパファーは、アレックスの前に倒れ落ちた。

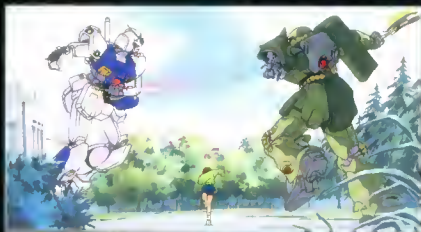


BATTLE DOCUMENT 02

RECORD
TIME: U.C.0079.12.25
PLACE: サイド8、リバー・コロニー
ENEMY: ジオン公国軍MS、ザクII改
パイロットはバーナード・ワイズマン

ポケットの中の戦争

トラップでアレックスを追い詰めたザクII改、ガトリング・ガンは破壊され、ザクと対峙するアレックスは、サーベルで必殺の一撃を狙う。やがてふたつの機影が交差し、戦いは相討ちの形で幕を閉じた。



ザクの奇策に追込まれるアレックス

ヒート・ホークがアレックスの頭部を斬り飛ばし、ザクII改が勝利したかに見えた。だがその時、アレックスのビーム・サーベルは、ザクのコックピットを貫いていた。



PILOT 戦いに挑んだテスト・パイロット

アレックスを操縦していたのは、女性パイロットのクリス。本来、彼女は機体の調整役であり戦闘パイロットではなかったが、強襲作戦に巻き込まれ、出陣することになった。

クリス・マッケンジー



PROFILE

アレックスのテストチームである、G-4部隊所属の女性パイロット。エンビでテストパイロットとして、アレックスの試験に関与。

THE RIVAL

アレックス増強任務の要となった、ジオンの青き闘士

MS-18E ケンパファー

SPEC

総高/全長/全幅/全重
17.7m / 43.2m / 78.5t
ジュネーター出力/1,500kW
スラスター推力/19,000kg
U.S.500×2、27,000×2、12,800×4
機体重量/エンジン/燃料/燃料
センサー/センサー/センサー
視界/視界/視界/視界
ビーム・サーベル
専用ショットガン×2
ジャイアント・バスター×2
コックピット/ファンスト×2
センサー/センサー
ヒート・ホーク



コロニー内での増強工作という特殊任務のために配備された、強襲型MS。多彩な武器と機動性の高さで、アレックスに挑んだ。

戦慄の巨人たち

グリプス戦役時、ガンダムの名と姿を与えられながら、あまりに異質、異様な2体の巨大マシーンが存在した。サイコ・ガンダム——地球連邦軍ティターンズのニュータイプ専用M.Aである。ここでは、この機体の技術的解説と、その数奇な運命について記す

構成・文：日下部匡彦

サイコ・ガンダムを生んだ時代

91戦争終結後、グリプス戦役の時期にいたるまで、地球連邦軍は、ティターンズ1号により非常に多くにわたる兵器開発プロジェクトを同時に進行的に進めている。試作された新型M.S.の数を見ればわかるように、旧シオン公国軍に敵対するプロジェクトが進行されていたと考えられる。

連邦軍が多くの新兵器の開発を急いだ理由は、いくつかあるが、連邦内の反政府勢力に加え、テラー戦争のようなシオン軍残存勢力による脅威が、またひとつ加わっていたことが第一に挙げられる。

小惑星アケレスに本拠を置くことされるシオン残存の技術力は非常に高いと予想され、M.S.の改良や進歩に目を留めたプロジェクトの多くは、これに対抗するためのものと考えられる。

こうしたプロジェクトのひとつに、ムラサメ研究所などでのニュータイプ専用機の開発プロジェクトがあった。もともとこれは、連邦軍に吸収され合流したシオン系技術陣の立案したものであった。



頭部のみを見ると、RX-78-2に似た印象を抱くが



より怪物みした形相となり、ガンダムの面影は薄れた。

連邦軍は、ニュータイプの存在は認めたものの、彼らが宇宙空間に満ちた新人類であると認めていなかった。このため、開発計画は承認されたものの、あくまでシオン軍境域にニュータイプ専用兵器が存在した場合の対抗策として、研究が認可された経緯があった。その結果、かつてない一種異様な兵器が生まれることになった。

ニュータイプが操る モンスター・マシーン

サイコ・ガンダム。それが、連邦軍における初のニュータイプ専用機に冠せられた名であった。

試作1号機にあたるサイコ・ガンダム、および後継機サイコ・ガンダムMk-IIともに、その姿はRX-78ガンダムの面影を感じさせるものとなっている（余談ではあるが、これらの機体がガンダムの名とデザインを取り入れたのは、戦勝の象徴であるガンダムの後継機という名目でなければ、開発予算が下りなかったためだと言われている）。

だがこれらの機体には、ガンダムと呼ぶのを躊躇させる、ひとつの特徴があった。

巨大なのだ。RX-78が頭頂高約18メートルであるのに対し、サイコ・ガンダムは両機ともに通常M.S.の2倍強、40メートル近い容容を誇る。

もちろん、サイコ・ガンダムがこのような巨体を持つにいたったのは理由がある。

ニュータイプの感応波を受信し、機体や武器を制御するサイコミュは、当時の技術水準ではM

ガンダムMk-IIと比較すると、この機体の巨大さがわかる。



Aサイズでなければ実現できないものだったのだ（91年戦争末期のニュータイプ専用機が、すべてM.Aサイズだった理由がこれである）。

サイコミュ搭載が前提にあるサイコ・ガンダムでは、必然的に機体が巨大化せざるを得ず、その巨体を自壊させずに駆動するため、ミノフスキー・クラフト等の、艦艇級が要求するシステムを搭載する必要があった。その結果、さらに機体が巨大化することになったのは皮肉なことである。

とはいえ、その巨体に搭載された大出力熱核反応炉の生み出すパワーは凄まじく、この時代の機動兵器の中で、群を抜いた出力を持つ怪物であることは間違いないかった。



MRX-010 PSYCHO GUNDAM Mk-II

SPEC

頭頂高	39.96m
全高	40.74m（M.A時）全高 33.53m 全高 31.78m
本体質量	187.0t
全質量	283.9t
メカレター出力	19,750kW
スラスタ推力	244,240kg（23,720×4、33,340×4）
装甲材質	ガンダリウム合金
センサー有効半径	16,230m
武装	メガ・ビーム砲×2 機体の後部・ヒール砲×3 胸部有線式サイコミュ遠隔ヒール砲（ビーム・ソート専用）×2 腕部メガ・ビーム砲×2 リフレクター・ビット多数 リルト

MRX-009 PSYCHO GUNDAM



イラスト：BEE CRAFT

SPEC

全高 40.0m
(MA時 全高 30.2m 全幅 32.4m)
本体質量 214.1t
全機質量 388.0t
シ・ネーター出力 33,600kW
ス・ニター出力 168,000kg
装甲材質 ガンザリウム合金など
センサー 有効半径 10,200m
武装 3連装機銃・ワザ子砲
海軍ヒール級×10
機体メカ・ヒール機×2
1アーム・アサシ
シールド

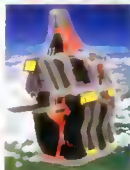
※変更された部品設定アサシもつづき 記載してあります。

ミノフスキー・クラフトによる飛行

サイコ・ガンダムは、ミノフスキー・クラフトを装備した史上初の機動兵器である。この設備によりサイコ・ガンダムは、単体での長距離移動を可能とした。

ミノフスキー・クラフトとは、機体下方にミノフスキー粒子を散布することによってミノフスキー粒子の立方格子構造を構成させ、そこに発生する反発力を使って浮遊するための機構だ。サイコミュ搭載によって大型化した機体の移動のため、サイコ・ガンダムは同システムを採用している。ただしこれは、モビルフォートレスと呼ばれるMA形態を取らなければ使用することができない。また、ミノフスキー・クラフトの原理上、安定した低速飛行が可能なかろう。機動力は劣る

ミノフスキー・クラフトは、機体下方にミノフスキー粒子を散布することによってミノフスキー粒子の立方格子構造を構成させ、そこに発生する反発力を使って浮遊するための機構だ。サイコミュ搭載によって大型化した機体の移動のため、サイコ・ガンダムは同システムを採用している。ただしこれは、モビルフォートレスと呼ばれるMA形態を取らなければ使用することができない。また、ミノフスキー・クラフトの原理上、安定した低速飛行が可能なかろう。機動力は劣る



ミノフスキー・クラフトにより、成層圏レベルにまで飛ぶことが可能である。

サイコ・ガンダムのMA形態



サイコ・ガンダム Mk-IIのMA形態



Iフィールドによる防御

サイコ・ガンダムにはIフィールドによる防御システムが搭載されている。これは機動力に劣る部分を補うためのものであった。

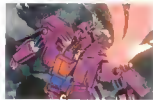
サイコ・ガンダムは、その巨体ゆえに機動力にすぐれた機体とはいえない。戦闘時には巨大な欠点と化す可能性があった。

そこで当機は、メガ粒子の収束に使われるIフィールドを機体全体に展開させてメガ粒子ビームを拒否、Iフィールド発生機を装備している。これは機体を中心にメガ粒子に對して斥力を持つ場を作るものなので、自機が発射するビーム兵器は、その影響を受けない。ただし弾薬兵器による攻撃を防ぐことはできない。



一年戦争期のMAビッグ・ザムは連射型ビームを多くIフィールド発生機を装備し、連射率を向上させた。

Mk-IIのバリアは、機体の主軸クラスに強力なビームを弾き返すことができる。



バウンド・ドックによる支援

この機体はニュータイプ専用機で、サイコ・ガンダム Mk-IIのサポート用MAでもあった。

サイコ・ウェーブ増幅装置によって、精神的に不安定なサイコ・ガンダム Mk-IIのバリエーションを制御下に置くことにも、本機のバリエーションによる精神的サポートを行った。



地球連邦軍のニュータイプ研究所

グリアス戦役における連邦軍の代表的なニュータイプ研究所には、ムラサメ、オーガスがある。これらはどのような役割を果たしていたのか。

ムラサメ研究所は、旧ジオ系研究者から入手したデータをもとに、サイコ・ガンダムを制御、ローアアウトしている。同機パイロットのフォー・ムラサメはここ出身である。オーガス研究所も数々のMA、MSを開発している。なお、連邦軍のニュータイプ研究の情報は、ニュータイプを機動兵器の一部とみなし、軍用技術やマインドコントロールなど、人工的な能力の強化にためらいを持っていない点だと書えよう。



ムラサメ研究所のメンバー。カー・コーン（左）とフォー・ムラサメ。

Weapons of MRX-009

遠隔コントロール式の武装を持たないサイコ・ガンダムではあるが、まさに機動要素とでも呼ぶべき攻撃力の高さは、侮れないものがあった

内蔵式ビーム兵器

サイコ・ガンダムはすべての武装を内蔵し、両肩兵器を持たない。機体各所のビーム兵器はMSのそれよりも大出力なものだ。機体背面が攻撃上の死角となるが、頭部と指部のビーム砲がかなりの範囲をカバーする

3連装拡散メガ粒子砲



機体の3連装拡散メガ粒子砲は、機体背面の非常に広い範囲を掃射可能。多数の目標に対して、大きな威力を発揮する。

指部ビーム砲



小型ゆえに1基あたりの出力は僅か。両手に計4基を備えており、十分な威力を持つ

頭部メガ・ビーム砲

動に2基装備された小型砲。可動範囲が広い。機動的な攻撃が可能。なお本機のクックビームは、頭部にあり。



大型シールド

MS形態においては、シールドとして用いられる。またMA形態時には上下に分層して本体の腰部に装着され、ミノフスキー・クラフトの浮力発生板となる。その厚さから、シールドとしての耐弾性能は高い



そのサイズからもわかる通り、動性を保つためにかなり削製装甲が施されている。飛行、手運用の要要なパーツでもある

Weapons of MRX-010

Mk-IIは、サイコ・ガンダムを空間戦闘用に再設計した機体である。ビーム砲がほぼ全無くなく装備され、遠隔コントロール兵器も備えている。

内蔵式ビーム兵器

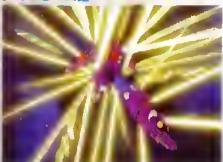
Mk-IIでは内蔵ビーム兵器の数が20門と、飛躍的に増加している。機体から全方位に向けて、ビーム砲による攻撃が可能。手首には大型ビーム・ソードを内蔵し、MSとの接近戦、格闘戦も可能となる。

腕部メガ拡散ビーム砲



出力は抑えられているが、攻撃範囲の広さは驚く。威力も必要十分なレベルである。

メガ・ビーム砲



全身に配されたメガ・ビーム砲による全方位攻撃。空間戦闘を想定しており、死角はほぼ存在しないことがわかる。

頭部メガ・ビーム砲

頭部メガ・ビーム砲の仕様はサイコ・ガンダムと同様である。頭部は独立して飛行可能で、その機もこの砲は使用可能。



サイコミュ兵器

Mk-IIには、サイコミュによる遠隔操作兵器が実装されている。頭部を切り離し有線式遠隔としてのオールレンジ攻撃が可能だが、ビームを反射させて攻撃を行うリフレクター・ビットと呼ばれる装備もある

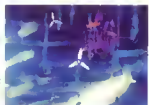


頭部のビーム砲を用いた全方位攻撃。一帯戦争等のサイコミュ兵器と同様の攻撃システムである

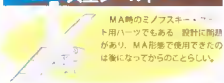


リフレクター・ビット

本体背部のストから発射されるビームは弾速が速く、本体から発したビームを反射させて攻撃する



大型シールド



MA時のミノフスキー・クラフト用パーツでもある。設計に簡潔があり、MA形態で使用できたのは驚きであるからとらしい。

サイコ・ガンダム Mk-IIのたどった数奇な運命

2度撃墜された、運命のマシン

サイコ・ガンダム Mk-IIが実戦投入されたのは、グリプス戦役の末期だった。ここで、Mk-IIはZガンダムによってクックビットを破壊され、小惑星アクシズ近傍に放棄された。この後に本機は、ネオ・ジオン軍によって回収される。自らのニュータイプ専用機として再活用するためである。再生されたMk-IIはふたたび総動員に投入され、Zガンダムと死闘を繰り広げることになった。

MRX-009 & MRX-010 サイコ・ガンダム&サイコ・ガンダム Mk-II

闘いの記録

ガンダムの名を与えられながら、様々なさを感じさせるマシーン、サイコ・ガンダム。そのパイロットに選ばれた強化人間たちの運命をもてあそんだ、恐るべきこの機体の闘いと、その結末について見てみよう。

BATTLE CHRONOLOGY

宇宙世紀 0087年3月2日	グリプス戦役、勃発
6月29日	サイコ・ガンダム、 ニューホンコンにて ガンダム Mk-II と交戦 [R]
0088年2月上旬	サイコ・ガンダム Mk-II、 アクシズにてZガンダムに 撃破される [R]
2月22日	グリプス戦役、終結
29日	第1次ネオ・ジオン戦争、発生
10月31日	サイコ・ガンダム Mk-II、 コロニー落とし作戦のため、 Zガンダムに撃破される [R]
0089年1月17日	第1次ネオ・ジオン戦争、終結

BATTLE DOCUMENT 01

RECORD
TIME: UC0087.6.29
PLACE: ニューホンコン
ENEMY: エンゴウ軍MS、ガンダム Mk-II
パイロットはカミーユ・ビダン

恋人たちの悲劇……



ニューホンコンの闘い

サイコ・ガンダムとそのパイロット、フォウ・ムラサメは、ニューホンコンでガンダム Mk-II と死闘を繰り広げていた。敵のパイロットは、フォウが心を許しかけたカミーユ・ビダン。だがサイコ・ガンダムは、フォウの心を戦場の混乱の中へと引き込んでいく。



カミーユの呼び声によって、正真正正と戦ったフォウだったが、ふたりで過ごした甘やかな時間は、もう戻っては来なかった……。

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD
TIME: UC0088.2
PLACE: アクシズ
ENEMY: エンゴウ軍MS、Zガンダム
パイロットはカミーユ・ビダン



アクシズの死闘

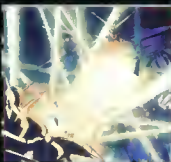
アクシズ上空で暴走するサイコ・ガンダム Mk-II。度重なる強化により記憶の混乱したロザミアが、暴走をはじめ。かつて兄と慕ったカミーユの声も届かず、ロザミアはZガンダムの放ったビームの光の中に消えていった。



無情の選択

BATTLE DOCUMENT 03

RECORD
TIME: UC0088.10.31
PLACE: ダブリン
ENEMY: エンゴウ軍MS、Zガンダム
パイロットはジード・アークザン



ダブリンの攻防

ネオ・ジオンがサイコ・ガンダム Mk-II に搭乗させたのは、ニュータイプ少女のクローンだった。彼女は感情にまかせて戦いの中で自分のオリジナルを撃ってしまい、混乱を抱えたまま戦い続けることになる。

クローン・ニュータイプの猛威



PILOT

サイコ・ガンダムによって運命を狂わされた少女たち。彼女たちは、自らの精神の扉を破壊され、定められ、あきらめようのない悲劇の中へと転落していった。理解しあうための力を戦いのために利用され、血と涙の中に生きながらえた彼女たちに、救済はありえなかったのだろうか……

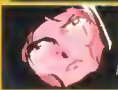
フォウ・ムラサメ



PROFILE

ムラサメ軍医出身の強化人間。精神を狂わすための記憶操作など、フォウの名も無類に4番目まで意味するものではない。戦場不明だが、10代と推測される。

ロザミア・バダム



PROFILE

コロニー落としの戦いで、黒いオーラの少女の形に抱かれた強化人間となる。精神制御装置の存在により、年齢は17歳だが、既にMSパイロットのような反逆心を見せる。

フルツ



PROFILE

ネオ・ジオンのクローン・ニュータイプ。フルの名も、彼女自身は本人のクローンだが、精神操作に施され、命令に絶対服従する兵士として起用されている。

ニュータイプとモビルスーツ

ニュータイプとMS。時期をおなじくして登場した存在の関係を探る。

ジオン・ズム・ダイクンの提唱

ジオン共和国誕生の時代

地球の人口が90億人を超えた時、その解決策として人類が選択したのは、スペースコロニーへの大規模な移住だった。たかこの計画は、非常にデリケートな問題がついて回った。宇宙へと移住する人々は、故郷に捨てられた人々であり、地球に残った人々と移民たちの間には、新たな差別意識が生まれつつあったからである。

そこに、何年か前に現れたのがジオン・ズム・ダイクンであった。彼はニュータイプ論「宇宙に出た人類は、抱えた認識力や何れもを得て、真の相互理解や連帯を可能とするニュータイプなる存在へと進化する」とを唱え、宇宙移民たちの精神の支柱となっていく。それは、宇宙移民の政治的独立運動へと拡大していくのだった。

ジオン・ズム・ダイクン



宇宙移民への希望を語るダイクン

兵器としてのニュータイプ

一年戦争の時代

ジオン・ズム・ダイクンを中心としたジオン共和国の動きは、U.C.0068年、彼の急死によって変質することになった。ジオン共和国が、その遺志を継いだと称するザビ家。彼の打ち立てた独裁政治のもと、ジオン公国と名を変え、0079年1月、地球連邦政府に挑み戦争を挑んだ。

この時、ジオン公国は、ジオンの死した思想、ここにニュータイプ論を前面に押し立てた。人の革新のために地球連邦政府のくびきから離れ、宇宙に独自の国家を建設する。コントロールこそ、彼らが戦争を起こした理念であり、名目だった。とはいえず、この時期、ニュータイプのような能力の持ち主が、本質に出現すると想像する人間はなかった。ニュータイプはあくまでジオンの権威、人はかかあるべきである。という抽象的なたとえにすぎないと考えられていたのである。

だが、現実には違った。宇宙移民たちの間に、超常的といえる空間認識能力や感応能力を有する人間が現れ始めていたのだ。そのような人々を、いちいち「おかしな」のがジオン公国軍だったのは、ある意味必然ともいえるだろう。ニュータイプが

存在する。という事実、ジオン公国の正当性を裏付けることになるからである。彼らは早期から研究部門を設立し、その能力の原理を解明して、軍事利用のための技術開発を行ってきた。

一方、地球連邦軍がニュータイプの存在を認め、たのは、かなり後になってのことである。ジオン側とは違ひ理由で、地球連邦政府にとってニュータイプはあってはならない存在だったからだが、これが、連邦軍とジオン軍やその残存勢力との間に、ニュータイプに関する技術レベルの差として、後々まで影響を残す原因になるのである。



ニュータイプ 同士の空間現象

ニュータイプの間には、些事や感傷を瞬時に共有し、言葉の力を得ず、夢を伝えあうことが可能になる。

ザビ家



フラナガン機関



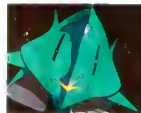
サイコミュとニュータイプ専用機

一年戦争末期

ジオン軍のニュータイプ研究が形をなすのは、一年戦争末期を迎えてのことだった。ニュータイプの持つ特異な認識能力や、宇宙に近い能力を生かすべく、知覚や思维を介した相互情報伝達システム、サイコミュを核として、さまざまなニュータイプ専用機が試作された。

プラウ・プロウやエルメス、レオンが代表といった機体は、どれもがサイコミュによる制御を前提としている。複数の自由に移動できるビーム砲を同時に操作しながら、機体本体の制御も行うという離れ業は、複数の対象を同時に認識し、処理できるニュータイプの能力者でなければ不可能だった。これらの機体は単機でも非常に強力なものとなり、特にエルメスは、初陣で3隻もの大型艦艇を沈め、従来の常識では考えられない戦果を現している。

方、連邦軍においてもニュータイプは、あくまで優れたパイロットという扱いでしかなかった。ニュータイプ専用機としてRX 78NT 1「アレクサ」が試作されたこともあったが、あくまでエースパイロットの稼働レベルに対応した機体にはすぎなかった。敵ニュータイプパイロットの戦況を捉え、攻撃するEXAMシステムを搭載した機体も確認されているものの、これの基礎技術はジオン公国からの亡命者によってもたらされたものだった。



エルメス

サイコミュによる機体同士の通信能力を最大限に活用し、初めは機体そのものの性能をフルに引き出す。

サイコミュ・システム 高機動試験機

サイコミュを最大限に活用し、機体同士の通信能力を最大限に活用し、初めは機体そのものの性能をフルに引き出す。



ジオン

機体同士の通信能力を最大限に活用し、初めは機体そのものの性能をフルに引き出す。



EXAMシステム 搭載機

機体同士の通信能力を最大限に活用し、初めは機体そのものの性能をフルに引き出す。

サイコミュの小型化と人工的ニュータイプ

クリプス戦役

～第1次ネオ・ジオン戦争の時代～

パイオセンサー搭載機

「オア・バスター」のMS「Z」に搭載されたサイコミュの能力を最大限に引き出した機体



サイコミュ搭載機

「シャア・アザム」のMS「Z」に搭載されたサイコミュの能力を最大限に引き出した機体



「戦艦大和」のサイコミュは、装置の小型化が難しかったという技術的問題を抱えていた。

ジオン軍のサイコミュ搭載機がほとんどM.A.に限定されていたのは、これが理由である。戦艦大和最後の戦いとなったア・ハオア・戦役防戦に現れたサイコミュ搭載M.A.は、関節部を含めほとんど通常のM.A.と同様にサイコムになるほど小さかった。

この経緯は、1987年のクリプス戦役の時点にもなっても、完全にはクリアされていなかった。ア・ハオアの戦いにはクリアできなかったサイコミュ搭載機はサイコム・ガンダムのような小さな機体しか存在しなかったのだ。

この時期「アナハイム・エレクトロニクス社」が試作したパイオセンサーは、サイコミュを簡略化したサイズやパイロットへの負担など、技術的問題の解決を図ったシステムである。サイコムほど完全なコントロールを実現するものではなく、あく

まで操縦系の補助を行うものだった。設計段階で下関されていたこととされる。思念による力場の発生など、一日に換する結果を待っている。

サイコム搭載機は確かに強力ではあったが、それを操るパイロットの確保は困難であった。自暴発した。サイコムは非常に希少であり、能力にも大きなばらつきがあった。このため、人々にサイコムを誇示させる試みが行われた。強化人間プロジェクトである。しかし、強制的にニュータイプの素質を活性化させられた人間は、特に情緒面で不安定になる傾向が強く、試験的に数名が実戦に投入されたものの、良好な結果を残したとは言い難い。

ネオ・ジオン軍では、この問題をクローン技術によって解決しようという試みが行われた。こちらはある程度成果を残したようだが、やはりパイロットのコンティンションの不安定さという問題を払拭することはできなかった。

強化人間

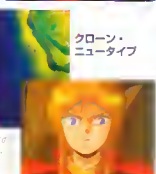
地球連邦軍が生み出した初期の強化人間「クローン・ニュータイプ」



クローン・ニュータイプ



「クローン・ニュータイプ」の強化人間



ニュータイプ専用機の決戦兵器化と新技術

第2次ネオ・ジオン戦争の時代

1993年の第2次ネオ・ジオン戦争開戦の時点で、すでにネオ・ジオン軍のニュータイプ専用機は完成の域にあった。強化人間の安定化にも成功し、高い戦績を残した例が報告されている。

ニュータイプ・パイロットが安定して供給されるめどとなった時点で、ネオ・ジオン軍は数種類のニュータイプ専用M.A.とM.S.を開発、製造し、連邦軍に数える戦力の機体を開いた。こうした機体は、単体で数機の通常M.S.に匹敵する戦力となり、緒戦でのネオ・ジオン軍の優勢を決定づけるものとなった。

それまで星が占拠していたニュータイプ専用機を、比較的に容易に小型化、生産可能とした技術が、サイコム・フレームである。これは機体の構造部材にサイコム機の機能を持つフレームを埋め込んだもので、専用設計ではない機体にも容易に小型かつ高機能なサイコムを組み込むことが可能な画期的な技術として完成をみたのである。



ヤフト・ドーカ

星を暴走サイコム搭載機を倒した。星の戦艦大和の戦いでは、2機が倒れた。星の戦艦大和の戦いでは、2機が倒れた。

α・アシル



名称	所属	設立時期	所在地	主な研究員	主な被験者	主な開発MS	概要
フラナガン機関	宇宙世紀 1979年6月	宇宙世紀 1979年6月	宇宙世紀 1979年6月	フラナガン機関 フラナガン機関 フラナガン機関	フラナガン機関 フラナガン機関 フラナガン機関	フラナガン機関 フラナガン機関 フラナガン機関	フラナガン機関の研究所で設立されるサイコムEXAMシステムの開発も元はここで行われた。
EXAM 研究所	地球 連邦軍	宇宙世紀 0079年中期	北米 基地内	フラナガン機関 フラナガン機関 フラナガン機関	フラナガン機関 フラナガン機関 フラナガン機関	フラナガン機関 フラナガン機関 フラナガン機関	元フラナガン機関の研究員であるア・ハオアから元連邦軍のクルスト・モースを招き、EXAMシステムとサイコム搭載MSを開発。
オーカスタ研究所	地球 連邦軍	宇宙世紀 0079年中期	北米 宇宙世紀 0079年中期	オーカスタ研究所 オーカスタ研究所 オーカスタ研究所	オーカスタ研究所 オーカスタ研究所 オーカスタ研究所	オーカスタ研究所 オーカスタ研究所 オーカスタ研究所	連邦軍のもとも古いニュータイプ研究所のひとつ。0080年代半ばにはア・ハオア博士がフラナガン機関EXAM研究所とラサザ研究所を経て所長。
オークラント研究所	地球 連邦軍	宇宙世紀 0080年代	北米 基地内	オークラント研究所 オークラント研究所 オークラント研究所	オークラント研究所 オークラント研究所 オークラント研究所	オークラント研究所 オークラント研究所 オークラント研究所	サイコム研究所と関わりが深く、機体の開発や調整を分担し合うことも多い。
キリマンジャロ研究所	地球 連邦軍	宇宙世紀 0080年代	クワンサ 基地内	キリマンジャロ研究所 キリマンジャロ研究所 キリマンジャロ研究所	キリマンジャロ研究所 キリマンジャロ研究所 キリマンジャロ研究所	キリマンジャロ研究所 キリマンジャロ研究所 キリマンジャロ研究所	クワンサの基地内に設けられた、機体の開発研究所。
ムラサメ研究所	地球 連邦軍	宇宙世紀 0080年代	日本 中国地方	ムラサメ研究所 ムラサメ研究所 ムラサメ研究所	ムラサメ研究所 ムラサメ研究所 ムラサメ研究所	ムラサメ研究所 ムラサメ研究所 ムラサメ研究所	旧・サイコム連邦軍のサイコムシステムをもとに、機体の開発をもとに、強力な機体の研究開発を手付け。
アクシズ ニュータイプ研究所	宇宙 世紀	不明	ア・ハオア	アクシズ研究所 アクシズ研究所 アクシズ研究所	アクシズ研究所 アクシズ研究所 アクシズ研究所	アクシズ研究所 アクシズ研究所 アクシズ研究所	フラナガン機関の研究所を、MSに搭載可能なサイコムシステムの小型化をもっと早く実現。ニュータイプを生み出す。

究極の阿姆ロ専用機

そのMSは、ネオ・ジオンとの戦いのさなか、突然あらわれた。RX-93Vガンダム RX-78シリーズ直系の機体にして、一年戦争の英雄、阿姆ロ・レイ専用の最強のガンダムである。ここでは、伝説の彼方へ消え去ったこの機体について見てみよう

構成・文・日下部匠俊

旧式化する地球連邦軍MS

グリプス戦役以降、地球連邦軍のMSに目立った変化は見られなかった。新世代MSがある程度完成の域に達していたのは確かだったが、第1次ネオ・ジオン戦争の終結によって、日先の人きな脅威がなくなっていたことによる軍縮の気運の高まりもあって、MSの開発が停滞傾向にあったことも、その理由のひとつだった。

新型MSがまったく登場しなかったわけではなく、シムとネモのコンセプトを統合して開発されたシェンガンは、それまで1方機だったシム軍に代えて投入された、バランスの良い機体だった。

リ・カズィは、傑作機。Zガンダムの生産機として設計された可変機構を廃し、代わりに宇宙戦闘機用時には、亜火器を搭載したバ・ウェポンシステム（BWS）を装着する。ただ、このシムはMS形態時には降伏しなくてはならず、効率は言いながら、そのための量産は見送られ、試作機が阿姆ロ・レイに回されている。

これらはしよせん、過去の機体の単純なリファインに過ぎない。0093年、第2次ネオ・ジオン戦争の勃発により、連邦軍は自分たちのMSが時代遅れになりつつある事実気づいたのだ。



連邦軍の主力MS。カ・バ・バ両性と機内性能が高い機体



右は2の重軍機。機内性能が高い

ネオ・ジオン軍の新鋭機群



ダクト・トローガは連邦軍で対戦できる機体はほぼない

第2次ネオ・ジオン戦争以降も、ネオ・ジオン軍MSは、それまでの機体のように突出した性能や、特異な機能をもつものではなかった。

第1次ネオ・ジオン戦争以降も、ネオ・ジオン軍は、ひそかに自軍MSの改良を続けていた。サキムをベースにマラサイの設計を取り入れてA・F・Mにリファインされたサキム・トローガは、連邦軍の新型1方機、Zガンダムよりも高い総合性能を持っていた。

サキム・トローガはサキム・トローガを基に、ニュータイプ専用機として開発された機体である。急造の感はあるものの、サキム・トローガの基本設計の素性の良さと、新技術サイコ・フレームによる、従来のそれとは一線を画す高性能サイコムによって、十分な実用レベルに達している。

サキム・トローガは、シャア・アズナブル専用に造られたカスタム機で、最先端の技術が惜しみなく詰め込まれた。1世代前のMA機の出力を誇るスーパーMSと呼んでいいものだった。加えて、この機体にも新型サイコムが搭載されており、人型ノズルによる全方位攻撃が可能だった。

この戦いに唯一参戦したMA、α・アンリルは1部隊隊を想定した仕様を持ち、多数のサイコム制御の武装と、高速移動を可能とする超大出力スラスター。1フィールド発生器を備えた、最終兵器の存在だった。

最強のニュータイプが鎮う最強のガンダム

ネオ・ジオン軍の持ち出したMS群は、緒戦において連邦軍のMSを圧倒した。特に、安定した運用が可能なニュータイプ専用機の存在は、大きな脅威となった。

これに対抗するため、阿姆ロ・レイ自ら設計に携わり、自身の専用機として造り出したのが、Vガンダムである。

スベ・ケ1は旧時代のネオ・ジオン軍MSであるサキムに及ばないものの、Vガンダムにカスタマイズされた機体であることなどから、戦闘能力はサキムに匹敵するか、それを上回る。

実際、Vガンダムの搭載したVガンダムは、ほぼ無敵とまで言われてきた。サキム・トローガはもちろん、α・アンリルすら圧倒し、ネオ・ジオン軍の絶対的エースであったサキムをも倒してのけたのだ。

だがこの機体には、それ以上の秘密が隠されていた。コクピットを構成するサイコフレームは、サイコム・システムを高度化するために採用した部材だったが、これが予期せぬ効果を生んだ。Vガンダム・レイの思念を物理的な力に変換し増幅したとき、思いも、奇跡的な現象を見たのだ。

その結果Vガンダムは、単体で小惑星アクシスの軌道を変えるにいたったのだが、その後、本機はVガンダムかとなったのは、知られていない。



Vガンダムの設計思想

第4世代MS群の中で、傑作機の誉れ高いVガンダム。その機体に注ぎ込まれた、技術と思想を探る

ガンダムの平均値×最新技術

VガンダムはオーソドックスなMSである。ただし、基礎技術には最先端のものが投入された機体だった。

可変機が全盛を誇った第3世代MSから一転し、基本性能の高さを重要視する第4世代へとMS開発の趨勢が向かっていた時代に、この機体はガンダムとしての原点回帰をめざして設計された。歴代ガンダムの能力の平均値を算出した上で、機動性と運動性を重視したため、結果として「平均して高性能が高い」、RX-78-2のコンセプトに近い機体に仕上がった。これは、MSへの造詣が深いアムロ・レイが、自らの運用のみを前提として基礎設計に関わっているためである。また、「あのアムロの専用ガンダムをワンオフで造る」という機会を得たA.E.社が、持てる技術の粋を尽くして開発と製造にあたったであろうことは、想像に難くない。

RX-78-2 ガンダム



後のMSに特知り知れぬほどの影響を与えた、伝説的な機体。言うまでもなく、アムロ・レイの愛機である。



A.E.社フロン・ブラウン工場で製造中のVガンダム。機体名は「A.E.社が開発したガンダム」の通称「量産型ガンダム」。



シンプルな機体構造

νガンダムは、MS本来の設計に立ち戻るかのような機体構造を採用している。この機体がめざしたMS像とは、果たして……?

νガンダムは、MS本来の人間型機動兵器としての特性を追求した機体である。このため、関節の可動範囲や機体の運動性、汎用性を重視しており、可変機構やコア・ブロック・システムは採用せず、武装もほとんど内蔵していない。余分な機構を持たないため、νガンダムの構造はクリアな機体設計のMSを思わせるほどシンプルである。第2世代以降のMSの基本通り、機体構造全体はムーバブルフレームに変えられ、各パーツはこのフレームにマウントされる形を採っている。同時に、各部は可能な限りユニット化されている。こうした機体構造の単純化は、高い剛性と耐久性を約束するとともに、整備やハーションアップのための改修をも容易にしている。比較的小規模な戦力による短期決戦が予想された第2次ネオ・ジオン戦争においては、短期間のうちに何度も出撃を繰り返す可能性が高く、整備、補修にかかる手間や時間は無視できない問題だった。なお、取り立て

て大型のスラスターは装備していないが、これまでもうたような機体の仕様ももたした軽量化により、機動性は高かった。

νガンダムは突出した機構や装備を持たず、非常に人型に近い。



汎用パーツで組まれた最上のMS

きわめて特別なワンプオ機でありながら、νガンダムの部材の大半は、地球連邦軍の規格品で占められている。その理由とは?

νガンダムは、開発開始からわずか3ヵ月という短い期間で完成した（正例には、満足するまでに何回も試作に実装投入されただけなのだ）。これはもちろん、A.E.社がこれまで培ってきた技術と、開発・製造に関わったA.E.社及びロンド・ベル機のエンジニア陣の、たゆみなく累年累月の開発であることは間違いない。

しかし、このように早く完成し、短期間で完成を可能とした最大の要因は、νガンダムに使われた多くの素材や部品が、地球連邦軍の規格品、もしくは調達しやすい部材で占められていたことに尽きる。入手するのに手間や時間を要さず、特性や稼動データはすでに十分に収集されているものを使うことによって、調達からテストにかけて必要とされる時間を、大幅に短縮することができたのだ。また、新規に開発、製造しなくてはならない点ものパーツをなるべく減らすことで、そのぶん、高品質で安心できる汎用パーツの入手と振り分けることが

できた。いわばνガンダムは、機珍しさや斬新さこそないが、第一級のパーツをふんだんに使用して造られた、極上の機体だったのだ。

そして最も重視されたのは、機体の持つポテンシャルの限界ぎりぎりまで使うこととなるであろうアムロの運用法と連戦に耐えうるタフさ、そして高い信頼性であった。その点でも、汎用パーツの採用は、合理的な選択だったといえる。



νガンダムの駆率さを証明するように、サイバに駆る乗るの格闘戦を繰り返す。

サイコミュとサイコ・フレーム

ニュータイプ専用機として、機体と連動操作端末の制御のために不可欠なのが、サイコミュと最先端素材のサイコ・フレームだった



νガンダムの機体設計はアムロに見せし、機体設計者 オクトバに



νガンダムの機体設計はアムロに見せし、機体設計者 オクトバに

サイコミュとは、サイコ・コミュニケーションの略称で、ニュータイプの脳が関与する感応応答によって機体などの遠隔操作を行うための、マンマシン・インターフェースである。このシステムは、一年戦争末期に旧ジオン公国軍によって実用化された。複数のヒューマン兵器を遠隔操作しての全方位からの高攻撃、遠距離からの攻撃は、恐るべき戦果を挙げた。

第2次ネオ・ジオン戦争の時代には、サイコミュはMSにも搭載できるサイズになっており、ネオ・ジオン軍は少ない戦力で戦況を有利に運ぶべく、サイコ

ミュを搭載したMS、M.A.を主力に駆使している。さらに彼らは、コクピットの周囲に、サイコミュ機能を補佐する超小型コンピュータ、チップをナノレベルで埋め込んだ、サイコ・フレームという構造材を使用。これは一種の感応波受信装置兼プロセッサとして機能し、サイコミュの高性能化を果たしている。この最先端技術は、製造途中にあったνガンダムにも取り入れられた。なぜなら、アムロと同等な条件で戦うことを欲するネオ・ジオン総帥、シャア・アズナブルが意図的にこの情報をリークしたからである。驚くべきことにνガンダムのサイコ・フレームは、パイロットや周囲の者の思考を受け、ミノフスキー粒子の作る力場をも制御し、小惑星アークスの軌道を変えようという現象すら起こしている。

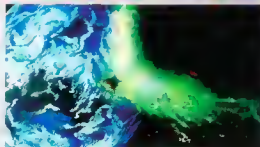
またνガンダムには、A.E.社の有するバイオセンサーやインコムといった、用途を限定した最優秀サイコミュ的なシステムも採用されている。



νガンダムのサイコミュを調整しているところ。ヘッドレストの受信パックにプロセッサを取り付け、パイロットの感応波と同期すること、調整も行う。



サイコ・フレームが受ける磁気、ダクダクの電磁気は、アムロ・レイの赤い意思を受けて、巨大な質量を持つ小惑星の軌道を変えるほどの力場が発生している。



コクピット・シート

リアシートにホルベンのアーム・レイターと機動性の速だが、ヘッドレスト後部にサイコミュの受信パックを装備

サイコ・フレーム試料

これ機体で、機体から感応波の受信、送信が可能で、バイオセンサー機能、力場を発生させることも可能である。

ニュータイプ兵器としてのガンダム

νガンダムは最終決戦において一種の奇跡を呼び起こし、のちに伝説と化したMSである。そんな機体の後に続いた「ガンダムたち」とは……？

兵器としてのサイコミュ

νガンダムの戦果は、パイロットの阿姆ロ・レイの能力とサイコミュの相乗効果によるものであった。特にフィン・ファンネルは、阿姆ロ・レイ以外にまともに扱える人間が存在するかどうか疑わしい。

たがサイコ・フレームの出現は、サイコミュをより実用的な制御システムへと進化させた。従来、強力な能力の持ち主でなければ使用できなかった



サイコ・フレームによる力場の形成。この力場を強いタイプ能力の持ち主以外が近づくことは難い。

技術が比較的容易に使用可能となると同時に、高効率化もなされた。

またガンダムは、ニュータイプと因縁の深いMSだったため、おのずとサイコミュ以外にもニュータイプ専用システムが搭載される機会が多い。UC 0096年に登場したユニコーンガンダムに、NT-Dと呼ばれるニュータイプ用システムが搭載されたのは、その最たる例である（これについてはVol 6で詳しく述べる予定）。

さらなる未来へ

UC 0100年代以降、兵器技術は転機を迎え、フィールド制御技術や機体制御システムの、劇的な向上を果たす。ビーム・シールド技術やフィールドを浮遊、推進システムに利用する技術、パイロットの記憶や感情を機体操作に取り込むとともに、機体の「感じた」情報をパイロットが即時に認識するバイオ・コンピュータなどが登場し、ガンダムに搭載されるニュータイプ用システムも、そうしたものと変わっていった。

ここでアークス降下開始時のνガンダムとサイコ・フレームの起こした現象を取り返してみよう。阿姆ロの意識は周囲の人々へと伝播し、敵味方を越えて人同士の共感を呼び、それが現実の人を救う力となった。あの瞬間こそニュータイプ7の、わかりあえる人々の姿があったのではないか。それを、ガンダムとニュータイプ能力を戦いに利用するためのデハイスが起こしたのだとしたら、ニュータイプとガンダムの未来にも、期待をしてみたいということではないだろうか。



瞬間移動状態であるニュータイプ7。この瞬間こそ「ニュータイプ」は、愛と平和のサイコ・フレーム

Basic Knowledge of 15

第2次ネオ・ジオン戦争の時代

地球連邦軍は、折からの暴風の空の中で解体が進んでいた。シャアはそれをたくみに利用し、武装蜂起に成功する。そして――。

シャアの叛乱と小惑星墜落

UC 0090年代、スペースノイドの不満はかつてないまでに高まりつつあった。地球連邦政府はこれを鎮圧し、事態の収拾を図ろうとする。そのさなか、シャア・アズナブルを総帥とするネオ・ジオン軍が武装蜂起する。シャアはジオン・ズム・ダイクンの後継者を名乗り、0093年2月、宣戦布告を行うと、3月に地球連邦軍本部のあるデブットのラサ市に小惑星5thルナを落とす。シャアの連邦政府への絶望は、成層圏に突き上げられた塵芥が太陽光線を通して地球を赤く染め、居住不可能にするという、地球寒冷化作戦を画策させたのだ。



シャアは人々に、ジオンの道徳を説く指導者として語りかける。



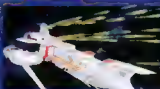
ラサに落下する5thルナ。地上に何となく異変の予兆をもたらした。

ロンド・ベル隊



ラー・カイラム
艦長プライト・ノア
アムロやシャアとは同世代。

ロンド・ベル隊
旗艦ラー・カイラム
連邦軍の新鋭艦隊である。



ロンド・ベル隊は、0090年に旧エウゴのメンバーを中心に編成された。ネオ・ジオン叛乱に対抗する、0093年においては、組織的作戦行動が可能なほぼ唯一の地球連邦軍部隊だった。編制当初、連邦政府の動きは鈍く、ロンド・ベル隊はネオ・ジオンの作戦を叩きながら思うように行動できなかった。だが0092年暮れのネオ・ジオン艦隊によるスイート・ウォーターの不法占拠により、事態は急変。プライト・ノアや阿姆ロ・レイが配属され、実働部隊として再編成される。これはネオ・ジオン艦隊に危険を感じた連邦高官、ジョン・パウアーの提議によるものである。だが時すでに遅く、5thルナ落下作戦の阻止は失敗に終わる。その後も連邦は、シャアの艦

隊に動きの鈍い、事態を好転させられずにいた。そんな中、ネオ・ジオンは連邦政府に対して見せかけの和平交渉を持ち掛けながらも、地球上の旧人種の絶滅を宣言。最終目的であるアークス脱下作戦を開始する。

アークスをめぐる決戦

艦隊を突破したνガンダムが、アークスのエンジンを破壊する。さらにロンド・ベル隊はアークスを爆撃して2つに分割し、その運動によって軌道を変えようとするが、計算ミスで片方の破片は逆に減速し、地球に向けて落下を始める。この危機を食ったのは、νガンダムだった。サイコ・フレームの共鳴現象を引き起こし、落下軌道にあった破片を地球から離脱する軌道へと変えたのである。奇跡とも思える現象とともに、第2次ネオ・ジオン戦争は終息を告げた。



運破。前後に分割されるアークス。この後、前後は離脱軌道に入りますが、後部は減速され、落下軌道に入ってしまう。

闘いの記録

アムロ・レイ専用機、νガンダム——その機体は、最大の強敵として
一度も刃を交え、そしてある時は頼もしい仲間として共闘した、あのシャ
アと闘うために生み出された。そう、決着をつける前が防げたのだ。

BATTLE CHRONOLOGY

- 宇宙世紀
0092年12月 シャア・アズナブル、
ネオ・ジオンの総帥に就任
- 上旬 νガンダムの開発。
アナハイム・エレクトロニクス社
にて開発
- 22日 ネオ・ジオン艦隊。
離脱用コロニー、
スウィート・ウォーターを占領
- 25日 地球連邦軍。
ロンド・ベル隊を増強
- 0093年2月27日 シャア、
インタビュー番組内で事実
上の参戦表明
- 3月4日 ネオ・ジオン艦隊により、
軌道を変更されたザハール、
地球連邦軍本部のある都市、
ラサに落下
- 6日 ネオ・ジオンと連邦政府、
秘密裡に和平交渉
νガンダム開発記録 **NEW**
- 12日 ネオ・ジオン艦隊、増援を
急派しアクシズを襲撃。襲
撃した精兵糧と共に地球に
落下させようとするが、ロ
ンド・ベル隊の働きにより
失敗 **NEW**
- シャアとアムロ、戦艦のせなか
に行方不明 **NEW**
- 第2次ネオ・ジオン戦争、
終結

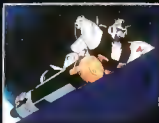
BATTLE DOCUMENT 01

RECORD

TIME: U.C.0093. 3. 5

PLACE: サイド8、ロンドン・コロニー近海

ENEMY: ネオ・ジオン軍艦隊



月からの初陣

ネオ・ジオン軍に急襲されたロンド・ベル隊を救うべく、完成まもないν
ガンダムは、月面のA.E.社フォン・ブラウン工場から飛び立った。調整もま
まならず、作動試験もほとんど行われていない状況での初陣だったが、放っ
たビーム・ライフルの一閃は、敵を退けるに十分なものであった。



マス・ドライバーとブースター・ベッ
ドを使い、宇宙へと飛び出す。



νガンダム、完成!

戦艦を倒えた
νガンダムは、
ラー・カイラム
に配備された。

BATTLE DOCUMENT 02

RECORD

TIME: U.C.0093. 3. 12

PLACE: アークス近海

ENEMY: ネオ・ジオン軍艦隊、ヤクト・ドーガ

ネオ・ジオン軍M.A.、G・アゾール

パイロットはギニュー・ガスとクウェス・パロヤ

ニュータイプ部隊との激闘

地球への小惑星落下作戦を阻止せんと、ロンド・ベル隊は小惑星アクシズ
へと急行する。失墜を切るνガンダムの行く手を、α・アジールとヤクト・
ドーガが遮った。強力なニュータイプと強化人間の組み合わせに置いながらも、
フィン・ファンネルを驚異的な技巧で操り、疾風のように敵陣を突破してい
く。めざすべきはアクシズ、そしてシャア・アズナブルの眠る、赤い機影のみ!

アクシズの戦艦は、
νガンダムのしなか
らへは、けり込めな
い。



戦艦を倒えた、ニュー
タイプの機影は、アク
シズの戦艦に、シャ
アの機影を映し出す。



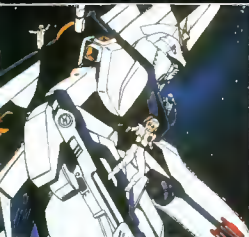
νガンダムは戦艦に
近づく。その機影は、
戦艦を倒えた、シャ
アの機影を映し出す。

νガンダムは戦艦を
倒えた。その機影は、
戦艦を倒えた、シャ
アの機影を映し出す。

血路を切り開くνガンダム



一瞬の隙が勝敗を分ける……。νガンダムの捨てた機と「ズ」に気を取
られた刹那、ビーム・ライフルの直撃が、ヤクト・ドーガを初撃した。



RECORD

TIME: UC0093.3.12

PLACE: アークスZ近海

ENEMY: ネオ・ジオン軍MS、サザビー
パイロットはシャア・アズナブル

最終決戦の刻

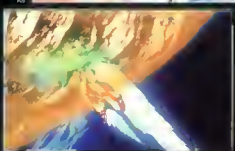
アークスZに迫る \wedge ガンダムに、シャアの乗るサザビーが颯いかかる。隙を突いて \wedge ガンダムがアークスZのエンジン破壊に成功するものの、サザビーは隙をぬいて。闘いはやがて私闘へと変わっていく……。一方、ロンド・ベル隊によって破壊され、2つに分断したアークスZだったが、後方の岩塊が滅滅し、地球への降下を始めていた。それを知ったアムロは、死闘の末に捕らえたシャアとともに、 \wedge ガンダムでアークスZを再び宇宙へ押し上げようとしたり、サイコ・フレームの放った心の光が宇宙へと広がる。光が驚異的な力を放ち、アークスZは軌道を変え、宇宙へと飛び去っていくのだった。



宿命の対決の結末は……



シャアとアムロの決戦は、アークスZの破壊から始まる。



アークスZに迫る \wedge ガンダムに、シャアの乗るサザビーが颯いかかる。

サイコ・フレームの放った心の光が宇宙へと広がる。

PILOT アムロ・レイ

かつての地球連邦軍の英雄が選んだ、最後の闘いとは……

ロンド・ベル隊のMS部隊隊長にしてエースパイロット。ニュータイプとして最も名も知られた人物の一人である。第2次ネオ・ジオン戦争にてシャアと戦うが、それは彼との関係の、個人的決着を望んだからでもあった。アークスZ落下阻止後の消息は、彼として知らない。



PROFILE

宇宙世紀2004年。地球生まれの28歳。身長171cm。体重63kg。ロンド・ベル隊所属MS部隊隊長。階級は大尉。

アムロ・レイの戦歴。地球連邦軍の英雄として知られる。

THE RIVAL

ネオ・ジオン軍の技術力を結集した、最善最悪のシャア専用MS

サザビー

SPEC

総高/22.0m
全幅/30.5m
全幅/30.5m
ジェネレーター出力/3,600kW
最大推力/131,000kg
(11,300×2, 4,000×2, 3,000×2)
機体重量/25,000kg
センサー性能/32,000m
駆動/燃料電池式
ビーム・サーベイト×2
ビーム・ショットライフル
ファンネル×6
シールド
固定/可動/可動/可動/可動/可動



シャアの能力を最大限に生かすべく設計された、彼専用の完全なワンオフ機。サイコ・フレームを搭載し、MSとしては最善最悪の能力、ジェネレーター出力を誇る機体。

◆アムロ・レイとシャア・アズナブル | 一年戦争時代から続く2人の因縁。彼らの上には常にララ・スンの影が落ちていた。



当初、2人の関係は、戦場で直宣り交えるライバルとして過ぎなかった。だが一年戦争末期、その関係に変化が生じる。ニュータイプ少女、ララ・スンの登場である。シャアの部下で主人公でもあった彼女は、アムロと親密に精神を共感させ、分ち合ひ精神の結びつきを持って、それに導かれたシャアは新しい組織を見た。アムロもまた、ララを戦士に利用したシャアに憤りを覚える。やがて、シャアを守るためにアムロの手によってララが命を落

とすと、彼らの対立はいつまで待てないものへと変わったのだ。一度は共闘によって和解したかに思えた関係も、結局は2人の精神に現れるララの幻影によって再び混沌の中へと引き込まれてしまう。ララを失った痛みを共有する、ニュータイプとして共に歩めるかもしれない唯一の存在だと互いに相手を見ていながら、ついに2人は最終対決の道を歩んだ。そしてシャアは彼道という決着を掛けながらも、アムロとの決着をつけようとしたのだ。

GUNDAM SIDESTREAM

第4回 モビルスーツバリエーション1

宇宙世紀の戦場を彩ったMS群。それらの開発のすきまを埋めるべく生み出された“MSV”の展開をたどり、2回にわたって数々のガンダムを紹介していく。

作品世界を深めた連合企画

ガンダムシリーズこれまでに多数の傑作品、関連映画を生み出してきた。なかでもアニメのMSの設定ととも、試作機や同系機などアニメでもよくMSが登場して、いつしかMSは兵器システムとまじりあてられて発展していったが、MSの原点たる それらは、ガンダムの商品展開の中で、各種商品別の「ガンダム特製やアニメーションの記事の中。そして小説やゲームやコミックなどで、新しい設定が積み重ねられ、育まれてきた。そしてMSVのシリーズは、1980年代前半のガンダムと二期に隔りを開いた。最初のMSVやMSXから、ZMSV、さらに 逆襲のガンダム MSV、MSV、そしてF91MSVへと続いていく。そしてこれらと平行して、模型雑誌などのオリジナル企画も加わり、宇宙世紀におけるMSの歴史が、より奥深いものへとなっていた。ここまでは、一戦戦から第1次ネオ・ジオン戦戦初戦のMSVにおけるガンダムを見てみる。

設定をより掘り下げて、新たなファンを獲得

MSV

アニメに未登場のMSを紹介したMSVという企画は、プラモデル(ガンプラ)と、雑誌の特集記事、アニメムック、コミックなどの中で生まれてきた。ミリタリーティストあふれるMSの設定は、大人を含む多

くのファンを魅了していった。ここでは、講談社ホケット百科シリーズの「モビルスーツバリエーション」に収録されたカラーイラストを中心に、さまざまなガンダムをお見せしよう。

RX-78-1

プロトタイプ・ガンダム



RX-78-2

カンタム



RX-78-3

G-3 ガンダム



FA-78-1 フルアーマー、

ガンダム



幻のMSを設定化したMSVの新シリーズ

● **MS-X**

MSVの新シリーズとして発表された企画「富野由悠季監督のメモ上で、名称のみが設定されていた『幻のモビルスーツ』のバリエーションを展開する」というもので、テレビマガジン、「講談社刊」などで連載された。ここで設定された機体のいくつかは、アニメやゲームなどにも登場した。

FA-78-2 ヘビー・カンタム

一年戦争末期に計画されたフルアーマー・ガンダムなどを開発したF.S.W.S計画において、プランニングされた機体のひとつ、増加ウェポン・システムの装備ではなく、機体を直接重武装化するという案を採用した。機動力を補うため、専用輸送機ガンキャリーも同時に開発されている。



グリプス戦役時代のMSV

Ž-MSV

一年戦争前後のMSのバリエーション機を展開したMSV。MS-Xに続き、クリプス戦役時代、つまり 機動戦士Zガンダム、で登場したMSの、プロトZガンダム等の先行巨作機や、局地戦用機などを生み出し

た企画 Z-MSVの名称で、バンダイ発行の雑誌 B-C LUB に連載された。エウゴの機体を中心に、ガンダムタイプ以外にも百式改、メタス改などの興味深い機体が設定されている。

FA-178

フルアーマー・カンダム Mk-II



MSF-00

カンタム Mk-Ⅱ



MSZ-006-X1~3

プロトZガンダム



MSZ-007

量産型Zガンダム



禁断の技を使うアイツが、狂四郎に挑戦状を叩きつけた!

ガンダム 狂四郎

作品ナンバー4 破壊神クラッシャー・ガンダム

メカデザイン&イラスト やまと虹一 原案 クラフト団



サッキー 竹田

楽しくなってきたな
ミスター 狂四郎

おいどんの
魔改造は
不滅でござす!

南郷 快山



ザクから魔改造装置で
破壊神クラッシャー! ガンダムに変身!!

破壊神 クラッシャー・ガンダム

作 南郷快山 魔改造

実家の会社を魔改造的経営法で日本有数の企業にまで育て上げた南郷快山にも、たつた一つ成し遂げていないことかあった「狂四郎。あのときの戦北は、おいどんは一生忘れない!」 南郷のキットは144分の1量産型ザクと、有名モデルにフルスクラッチさせた。自派クラッシャー・ガンダムの2体 これを魔改造と称し密かに入れ替えてバトルに挑む! しかしそのことは、もちろん狂四郎はお見通した。それで大丈夫なのか? 南郷快山!!

みーりちゃん



まだこりずに
インキ改造を
やっているのか!

クラフトマン・マスター

京田西郎 (39)



皆河有伽

イラスト 沖一

第4回 Zの鼓動

アナハイム・ブルー

強力なメカデザイナーのチームが敵機を開発する
破損した機体から取り出されたカミーユ・ビダンは、繋ぎ合わせた機体を戦闘機と見做していた。彼を助けた輸送機のコクピットに依っていたフレイ・ユイリは、アポロ11号がZを迎えてきたのよと教えた。セータと反響するように唸るカミーユは、ハハは機体の名を探り出した。カミーユは広野の11号を離れる機体に向けてとうとうカナンだ。できたのか、Z

『神明開機と見えるのは仮の姿にすぎない。この機体こそ、アナハイム・エレクトロニクス（以下AE社）が総力を結集して完成させた可変型MS。第3世代MSだ』¹⁰¹

鮮やかな青を基調としたガンダム。である。この色は、AE社がかつて開発したGシリーズで用いられていたのと同じ青。空海（宇宙）地球を象徴する。AE社のコーポレートカラーだった。

AE社には、メラニー・ジェー・カーハンは、AE社を代表する製品にこの色を採用するよう、常務

めっていた。Gシリーズは不幸にして歴史の隅に葬られてしまったが、MSZ-006ゾガンダムはAE社のフライング・ノモデルとして歴史に名を残す。メラニーの申にはそのような信念にも近い。確信があったのだろうか¹⁰²。

ガンダム開発計画の下書きによって、AE社は地球連邦のMS開発の最前線から外されることになった。また、ティターンズに代表される地球軍（トイ）が影響力を強めつつあった地球連邦政府は、宇宙政策が停滞し、月やコロニーの特殊活動に重点を移していた。

メラニーが地球連邦組織であるエウロコのためMS開発を止めとする協力を決意したのは、こうした状況を打開するためだった。

もっとも、協力のものは、エウロコから持ち込まれたものといわれる。エウロコは新素材ガンダリウムγを提供することでAE社の協力を取り付けようとしたが、AE社を取り巻く状況はこの新素材の存在がなかったとしても、エウロコと親密強化を選ばせるものだった。

両者の協力関係に基づき、エウロコの指導者ブ

レックス・フォーは船橋の建造を依頼。AE社は「アーサー」を完成させる（建造費用はアレックスが、半引になった木星行きの艦艇建造予算を案件して捻出したともいわれる）。

また、エウロコ側は独自MSの開発も行った。これを受けての開発は「当時社長に地位にあったコウエルン・ト・カハナンの助成しにメラニー主導で行われた。このことが、メラニー自身の抱いていた危機感の表れをうかがわせる。

AE社側がエウロコのMSにガンダリウムγを採用するのは、当然の成り行きだった。開発陣がこの機体にしたコードネームは「ガンダム」であった。

第3のガンダム

コードネームの由来はガンダリウムγを使用したためとも、この後開発されるAE社製ガンダム群のコードネームから「第3のガンダム」、という意味だともいわれる。αはRX-78であり、βはRX-78GP-02Aであったと知られている。

しかし、この機体を担当した開発陣は川内（川内）分司系技術者を中心であり、ガンダム開発計画にお

いて RX 78GP02A を担当した技術者が多かった。このため、本機は MS-09R リック・ドム¹の設計思想に、連邦軍の技術を融合させたものとなった。

連邦軍からの正規設計の機体なら、ガンダム開発計画の技術的成果を盛り込むことはできない。しかし、エウゴから秘密裏に発見されたこの機体ならば、そうした技術の使用も可能だった。⁰³

完成した機体は、ガンダリウム⁰⁴の採用により従来の機より軽量化されながらも、防御力の高いものとなった。機体の軽量化は同時に、母艦に反する長時間の活動が可能な域まで積載推進剤量を増加させ、各種武装を積載できる背部ウェポン・ラックの装備を実現させた。

ティターンズ主導で開発されていた RX 178 ガンダム MkⅡ がムーバブル・フレームを採用したように、MS 90 の機体構造は見直しそうという風潮に、A 団の開発陣も無縁ではなかった。彼らは機体各部をブロックごとに分割し、生産性、整備性を向上させたブロック・ビルドアップと呼ばれる構造を提案。この機体に採用する⁰⁵

機体の外観は当初、ガンダムタイプであったが、設計段階でティターンズに存在を察知されたため、変更されたともいわれる。こうしたことも関係して、本機は社内では MSA-009 の型式番号で開発が進められたが、完成後、MCS-099 の型式番号と、リック・ディアスの名称が与えられている。

ちなみに、この時期の連邦軍の型式番号において数字の前2桁は開発拠点を表すが、「09」に該当する施設は存在しない。この番号は開発側を乱れた協賛番号である。

本成熟ではあったが、ムーバブル・フレームに類似した機構を持ち、リアシート、ガンダリウム⁰⁶を採用したブロック・ディアスは、第2世代(MS-09)の機体となった。もっとも、本機は高コストであり、生産は少数に止めて生産を得なかった。

そこでエウゴでは本機で得られた技術的成果を取り入れながら、主力となる第2世代の本命機の開発を求める。A 団側ではコスト問題解決のため、本

格闘戦で使用するガンダリウム合金をガンダリウム⁰⁷とし、RMS 108 マラサリ、MSA-003 ネオといった機体を実現させた。

RMS 108 は当初、MSA-002 として開発されたが、A 団とエウゴの協力関係がティターンズに察知されたため、ガバナンの判断で急遽、ティターンズへ供与することになった。

連邦軍は域内で独自にMS開発を推進したが、地球圏最大の国境、生産規模を持つA 団を無視することはできなかった。必要以上の力力をかけるとは自軍の兵器調達に支障を来しかねない。ティターンズがA 団のエウゴへの武器供与の情報を漏れながらも、RMS 108 の環境で開発したのもこのためと見られている。こうした企業力を背景に、A 団は以後も、しばしば紛争の当事者、両方の兵器の開発、製造を行っていた。

また、エウゴでは主力駆逐機とは別に、フラッグシップモデルとなる高性能MSの開発を依頼した⁰⁸。第2世代を超えたる次世代MSとして開発づけられたこの機体の要件は、従来機を超える火力を持ち、その戦闘力を、自力で作戦域まで輸送できることだった。

これを受け、A 団はZプロジェクトを開始する。

離航する第3世代機開発

Zプロジェクトの立ち上げはRMS 099 の完成に目処が立った時点と目されるが、A 団は非常に短い期間で3機程の試作機を完成している。これらは後にブロックZガンダムの呼称と、MSZ 006 X1 ~ X3 までの型式番号を得ることになる⁰⁹。

試作機はRMS 099 同様、基本構造にブロック・ビルドアップを採用していたが、開発時に機体そのものを变形させようという意図はなかった。当初は機動力の強化を外装ユニットとしてフライング・アーマーを提案することで行おうと考えていた。

フライング・アーマーはMS用の人間遠隔人装置であり、重力下では補助飛行システムとして運用さ

れる装備だった(グリス役役後発後、RX 178 ガンダム Mk II 用の装備としてジャブロー戦略戦で実用化された)

開発陣はこのフライング・アーマーをMS形態時、背部へ装備させようとしていた。移動は胴部に設けたヒンジを支点とするスライドレールによって行われ、フライング・アーマーは頭部近くに前方へ回り込む形となる。機体前面でフライング・アーマーはシールドと組み合わさり、機体はいわゆるW 形の形状となる。

だが、フライング・アーマーの質量はMSにも匹敵し、変形時のスライド距離はMSの全高さにも上回っている。仮にこの変形を無重力下で移動中に行うなら、機体の姿勢制御に多大な推進剤を消費せねばならない。重力下であっては空気抵抗で機体が破損、脱落の場合、分解しても戻さず投入した。

このプランは非現実的であるとされ、試作機が完成した時点で放棄されるに至った。開発陣が新たに考えたのは、機体そのものを变形させてしまうというのだった。

そうした中で開発されたのが、「Z ガンダム」である。この時点でエウゴによってA 団にはRX 178 の実機がもたらされた。A 団の開発陣はこれを解析、ブロック・ビルドアップよりも成熟された、ムーバブル・フレームの技術に触れることとなった。

RMS 099 の開発でブロック・ビルドアップが制御に多少の問題を生じさせることは確認されていた。だが、開発陣はこの欠点解消のために、ブロック・ビルドアップの改良ではなく、ムーバブル・フレームの導入を決定する。

A 団はZEOINC 社系の技術者のみならず、連邦系の技術者たちも揃っていたものの、デラズ紛争以後、連邦軍のMS開発の最前線から外れたことももあり、'80 年代以降に流転されていた、フィールド・モーターの進化から、彼らを取り残されていた。ティターンズの技術者が持ち出したムーバブル・フレームは、いわば、フィールド・モーターの能力を最大限に活かすシステムだった。

⁰¹ MSZ-006 の群MS形態はワイブレライザー(With R) 形態と呼ばれる。これは、本機が機体構造上にも連なる大気圏突入時に生じる衝撃を機体構造に吸収し、耐熱的に発生する超高温に耐えるように設計されていることによる。

⁰² た。MSZ-006 のWR形態時の翼は10分間と短く、機体を生じる発生する空気の圧力と抵抗を減らす。MSZ-006 は両腕の関節の可変MSと化した。機体には、高い安定性を確保していたが、WR形態時のその巨大な機体によって大気圏内を飛行しているときだった。

⁰³ A 団のコードレートカラーが青となった外観は、メロニーの個人色の嗜好があらわともいわれる。メロニーは青い色が好きで、アライバールの機体でも顔の衣を着ておもしろくされている。彼はその子で機体は一部に、モットワグ、ヴォロニク有線電報のプレスコード、ヴォロニクの青、に派手な色を付けたためともいわれる。ちなみにエウゴの機体はA 団が建造した派手な機体。アガマの名をもらったメロニーであった。機体の名称となっているサンク

リッド後の命名は、彼の事業家としての傾向を示唆するものと考えられている。

⁰⁴ なお、A 団のガンダム系の機体は、その後も多くがA 団のコードレートカラーをまとうこととなった。

⁰⁵ 例えは、本機はブースター・バインダー・ユニットと呼ばれる、上下に可変するバーニア・スラスターとコロンバット・ファンターを併用した機構を持っている。この装置によって本機は多数の進行方向を必要とする。運動機、機体は従来の機体よりも上回っている。この装置はガンダム開発計画において採用された。RX 78GP01 のバーニア・スラスター・ユニット、RX 78GP02A のファンネル・スラスター・ユニットを技術的に継承するものであったとみて間違いないだろう。

⁰⁶ ブロック・ビルドアップはムーバブル・フレームと合わせて開発されており、重量感がありながら機体構造が平らなというメリットを持つ。もっとも、各部を独立させたことの影響

も、制御系の改善が必要でもあった。

⁰⁷ MS 第2世代機を保持したとはいえず、エウゴはティターンズに押しよせようとしていたわけではなかった。ティターンズはMS 90 単体での機動力強化に取り組みしており、航空性の強化としても連邦軍を可変式、RX-044 アニマルの試作機を0095 年の段階で完成している。こうした点からMA 005 MS 5 へ及ぼすことは当初、予定されていた。事実、グリス役後発後MSZ-006 の完成と同時期にティターンズは同系

MSZ-006



MSZ-006-X2

MS であるRX 110 カスレを完成させている。

⁰⁸ MSZ-006 X3 の機体は基本構造こそ同じだったが、それぞれ各部の形状が異なる。X1 はMSN-00100 式、X2 はMSX-099 リック・ディアス、X3 はMSA-003 などの機体と似通ったものを持つ。

⁰⁹ MSZ-006 の機体設計は他のガンダム系の機体と異なる点があり、こうした機体設計決定での設計経路が考慮されているとも考えられる。

MSZ-006-X3





① 通用型 MSZ-QC7000 ② MSZ-QC7000 ③ MSZ-QC7000 ④ MSZ-QC7000 ⑤ MSZ-QC7000 ⑥ MSZ-QC7000 ⑦ MSZ-QC7000 ⑧ MSZ-QC7000 ⑨ MSZ-QC7000 ⑩ MSZ-QC7000 ⑪ MSZ-QC7000 ⑫ MSZ-QC7000 ⑬ MSZ-QC7000 ⑭ MSZ-QC7000 ⑮ MSZ-QC7000 ⑯ MSZ-QC7000 ⑰ MSZ-QC7000 ⑱ MSZ-QC7000 ⑲ MSZ-QC7000 ⑳ MSZ-QC7000 ㉑ MSZ-QC7000 ㉒ MSZ-QC7000 ㉓ MSZ-QC7000 ㉔ MSZ-QC7000 ㉕ MSZ-QC7000 ㉖ MSZ-QC7000 ㉗ MSZ-QC7000 ㉘ MSZ-QC7000 ㉙ MSZ-QC7000 ㉚ MSZ-QC7000 ㉛ MSZ-QC7000 ㉜ MSZ-QC7000 ㉝ MSZ-QC7000 ㉞ MSZ-QC7000 ㉟ MSZ-QC7000 ㊱ MSZ-QC7000 ㊲ MSZ-QC7000 ㊳ MSZ-QC7000 ㊴ MSZ-QC7000 ㊵ MSZ-QC7000 ㊶ MSZ-QC7000 ㊷ MSZ-QC7000 ㊸ MSZ-QC7000 ㊹ MSZ-QC7000 ㊺ MSZ-QC7000 ㊻ MSZ-QC7000 ㊼ MSZ-QC7000 ㊽ MSZ-QC7000 ㊾ MSZ-QC7000 ㊿ MSZ-QC7000

自分たちの開発した技術を複製し、敵対している
勢力の開発した技術を採用する。連邦系技術に因
拠せざるを得なかったティターンズ側の開発陣には、
到底不可能な決断である。

るガンダムはムーバブル・フレームを採用した可変MSとして開発に着手された。

ムーバブル・フレームは可動部をフレームに内装する。これはM形像時の可動だけでなく、変形時の可動機構をもフレーム内に入れ込めるというところでもあった。したがって、ムーバブル・フレームならば機体構造を変更した場合にもデットスペースを省きたいという利点があった。しかも、フィート・モーターを変形機構に使用することで、機体変形に1秒も要さないという驚異的な速度が実現できるのだ。

開発陣は可変MSにおけるムーバブル・フレームの有効性を確認すべく、実験機としてMSA-005メタスの開発も行っている。

だが、8カンダムの開発は中断された

るガンダムは可変MSとして完成させるには致命的な欠陥を持っていた。この機体のムーバブル・フレームは強度が足りず、変形時の負荷に機体構造が耐えられないと判断したので

素人の革新的アイデア

2プロジェクトの行き詰まりは、ほんの偶然から打開された。RX 178がAF社へ届けられた際、この機体のパイロットを務める少尉、カミーユのメモが関

発陣の日に触れたのだ。そこには Zカンダム についてのアイディアが込められていた。

カミースのアイディアは人まかにふたつの要素で
成り立っていた。

ひとつはフライング・アーマーを左右に分割することだった。分割したアーマーはMS腰部のトナを經由して前面へ移動する。この方法であれば、背面に配置したアーマーのスライト距離を初期プランの半分以下で実現できる。同時に可動範囲は、変換時間においても同じ割合での削減が可能だった。

もうひとつは、機体構造に柔軟性を持たせること
 だった。機動装置 例へば、背部のロングテールバー
 ニア、スタビライザーなどを四肢以外の AMBAC テ
 パイスとして使用し、能動的な質量移動によって機
 動性を向上させようと考えていたのだ。

開発師はこれらのアイデアが実現可能なものか検討した。A/E社側の開発師において連邦系、公団系、投資の分け隔てはなかった。そればかりか、ムーバブル・フレームのように、開発元が敵対勢力のティターンズであろうと関係はない。たとえ、アイデアを提供してくれたのが、専門家でもない、少府であ

と、大切なのは理屈の機体を完成させることだった。とはいえ、開発陣が解決策を得るまでの間、長然と時を過ごしていたわけではない。停滞するMSZ

006 開発の周囲では依然、活発な動きがあった
例えば、開発が叫ばれたるガンダムは非食形の
機体として完成することとなった

るガンダムはフラッグシップモデルとなる。ガンダム」の試作機的な位置づけを持っていた。このため

本機は基本性能を高く設定されており、開発段階を
惜しむ声もあった。

そこで、クリス・M・ナカノ博士がこの機体を再設計、非変形の高性能MSとして完成させることになった。博士が中心となってMSの開発を手懸けるのは、この機体が初めてであったという。

わずかな設計変更で十分だったこともあり、機体は短時間で完成。博士の「百年保つMS」となっていたという願いを込めて、自式の名とMSN 00100の型式番りを与えられた。

MSN-00100 はワン オフの高性能機であるとともに、Zガンダム のデータ収集機として稼働づけられた。完成した MSN-00100 はエウーゴのクワトロ・バシーナ率いる乗機として大戦に投入された。

カミユのアイディアに触発される形で開発を再開されたMSZ 006は、極めて短期間で完成することになった。これはこの機体がゼロから開発されたのではなく、WRへの変形機構をMSZ 006 Xへ組み込む形で再設計し、兵装やシェネレーターを流して完成したためといわれる(X1からX3のいずれかへスワップとなったかは不明)。

WRへの変形が採用されたことによる最も大きな変更点は、メイン・シネレターの脚部への移設だった。これは、ひとつにはボディユニットへ変形機構の大部分が集中したためである。ここにメイン・シネレターを配する空間を確保することは不可能だった。

脚部を大型スラスタとして機能させる仕様はカ
ンダノ姿の機体としてはRX78NT-1以上の試みと

MS-006の「活生機」は「最も完成した」の異名を取っている。加えて、この詳細なノウハウによって開発されたZプラスA型を起点とする機体の開発である。

可変型MSの開発はアメリカ空軍の要求に端を発し、その要求は最終的にZプラスA型は多用途機として、並列2つの機体はW兵器搭載専用機として開発された。ZプラスA型は多用途機として、並列2つの機体はW兵器搭載専用機として開発された。ZプラスA型は多用途機として、並列2つの機体はW兵器搭載専用機として開発された。

この完成を見、しかし、BWSの式を採用して生産コストはさらに下がる。MSZ-007の量産は見送られている。

MSZ-006の量産の計画は、90年代中期に連邦軍よりA型とB型を委託された。MSZ-006の量産の計画は、90年代中期に連邦軍よりA型とB型を委託された。

この型番は、同じMSZ-006の量産に、コスト削減の性格を分けたものとなっている。MSZ-006A1、MSZ-006Cなど。

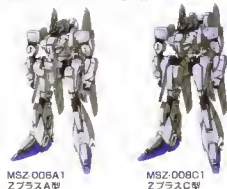
A型はMSZ-006の大型化による長距離飛行の可変MSとして開発された。A型のほか、機体の構造を改善するZプラス型に改造されたA2型がある。

B型はA型ベースに製作された人型、標準型の機体。エーゴがA型を宇宙へと再び設計した機体。伝説道から伝説道を守衛機として4型などがある。

D型はWRモーターを備え、一瞬の機動能力を待ちながらカノンタイプの高性能MS5といふ最も機動機。

E型は早期警戒機。

R型は追加ユニットの搭載でWR形態となる非常用機。



MSZ-006A1
ZプラスA型

MSZ-006C1
ZプラスC型



MSZ-007
量産型Zガンダム

MSZ-006
ZII



RGZ-91
リ・ガズィ

RGZ-95
リゼル

いわゆる、旧ジオン公団系の技術者にとりてはMS-009などで採用された技術であり、特に抵抗を感じるものではなかったのだろう。

熱核ハイブリッド・エンジンが採用によって、MSZ-006は大気圏内外での運動能力が大幅に上がった。変形によって脚部の熱核ハイブリッド・エンジンのみならず、機体各部に分散配置されたバーニア・スラスターの増設が機体後方に集中させ、出力を加速に利用できる仕様とされていた。これにより、本機は宇宙戦闘能力に優れる空間戦闘能力を持ち、他のMSを凌駕するサブ・フライト・システムとしての運用も可能となった。

金形機構とともにカミウス・ビダンの提案された、機体構造の柔軟性は、ロングテール・バーニア・スタビライザーとして実現された。WR形態時に機体一部の車輪位置にある部位に設けられたこの装置は、緊急時の加速や方向転換に使用された。MS形態時にはMSN-00100のデータを参考に、AMBACとバーニアを併用した機動ユニットとして用いられていた。

MSZ-006の機動性の高さは、軽量化された機体車輪に対するジェネレーター出力、縦スラスター推力のバランスが非常に優れていたことで生み出されたものだった。MSZ-006はそうした点でパワーウェイトレシオ（出力/重量比）を重視した機体と評され、設計思想としては同時代の他の機体を見てもいわれる。MS設計においてパワーウェイトレシオの重視が前面となるまでには本機の完成後、20年以上の時間が必要だった。

傑作機の、正と負の遺産

MSZ-006の基本構造は単年で「自由度が高かった機体」の生産コストが厳格に高いことを除けば、複製も容易であった。そのため、MSZ-006はエー

ゴでの運用時にも様々な改造がなされたばかりで、カミウス機のほかにも複製機が生産されたといわれている。また、さらに数々の派生機が開発されることとなった。¹⁰⁷

可変MSとしての機能に目されがちな本機だが、MS開発史上、重要な試みであった。ひとつがテラス紛争後、封印技術とされたガンダム開発計画での成果の投入である。これは下リニアシートを中心とするコクピット周辺の装置と、部品化において行われた。

クリス戦役の進展はエーゴに対するA型のコクピットを平準、自然な形にしていった。エーゴの勝利なくして、A型の将来はなかった。戦力となるMSへ、A社が地球連邦政府との約定を破っても封印技術を使用しようとするのは当然の帰結でもあった。

もうひとつが、リニアシートへのバイオセンサーの設置である。

サイコミュ技術は連邦軍によって封印されていたが、クリス戦役時、基本的な部分については外部へ漏れていた。

サイコミュ技術に関する情報を得たA社だったが、彼らはサイコミュそのものの開発には積極的ではなかった。サイコミュの小型化は極めて難しく、また、実際に使用した場合にもパイロットへの負荷が高くなることを理解していたのだ。A社の開発陣はこうした問題から、サイコミュに準ずる機能を持つデバイスとしてバイオセンサーを完成させた。

バイオセンサーは、一般的には、パイロットのメンタルなコンディションを機体稼働へ反映させる装置であると称されている。しかし、これは事実上の簡易サイコミュシステムであり、ニュータイプと見られるパイロットの発する感応波を検出し、機体制御へ活用するものであった。MSZ-006のパイロットとして肯定されたカミウスはエーゴ内で優秀な

ニュータイプと見なされており、そうした点からの設置であろう。ただし、このデバイスの設置は秘密裏に行われ、カミウスはもちろんのこと、開発陣以外に存在を知る者はなかったといわれる。

かつてMSZ-006は、この時代に求められた機能を体現する傑作機となった。

一方で、本機の成功が以後のMS開発によからめ影響を与えたことも内面的に、MSZ-006が達成した機能性は、以後の機体にも要求され、当然のように先行機を上回るスウェークの達成が開発陣に課せられることとなった。

結果は、機体ありの開発、製造費の爆発的な高騰だった。

そのため、開発される機体そのものも、量産機・試作機・高級機といった形で階層化されることとなった。これらの機体はパイロットの昇進に応じ、生産、配備され、戦場において機体の階層性の差別化の中で最速な運用形態を見出す形が取られた。こうした戦術は、年々増える連邦軍のRCM79システム投入に要請される、実効的な戦力の拡充と見られ、そのものだった。

開発面ばかりで、実際の戦術においても量産機よりもフラッグシップ機の投入が重視される状況は異常である。だが、この時期、開発陣はもちろん、実際の戦場で戦っていた指揮官たちも、その異常さに気づく者は少なかった。

彼らは熱に浮かされたようにMSのスウェークを追求める。

MSZ-006の完成後もZプロジェクトは継続され、過剰なまでにインフレーションしたスウェークを持つ機体が、ガンダム、のコード名で、開発されていった。

MSZ-010の型番書とZガンダムの名を「与えられることになるこの機体は、恐竜の進化」とさえ形容される。第4世代のMSだった。

GUNPLA-ガンブラ30年の歩み Revelations



■4■ ガンプラのニュースタンドを開拓したHGUC

MGで再び盛り上がったカンフラブームのさなかで、よりユーザーフレンドリーなプラントとして登場したHGUC。その特徴と、誕生の背景について追ってこう

文・石井 誠

1/144スケールの復権

MILシリーズのリリースから4年が経過した99
1 第2次ガンツツ ノームをより盤石なものとし
、新たなガテコリーかお目見えした HIGU
と名付けられたそのリリースは、かつてのガン
ツツのスタンダードスケールであった 1144サ
イムで統一された製品群だった。

シリーズのネーミングからも察せられるように、これはサンフラ10周年時に立ち上がったH&Mの2ブランドを後継するブランドとしてスタートしたのだが、その誕生にはいくつかの理由が存在していた。

99年「当時」カンパラのパリエント商標としたMは、その求めるクオリティへの高き追求に因り開発を遂げ、価格も上着の高級品にならなかつた。既製品型による顧客層のMの商品化は実現しなかつた。さらに1/100スケールとサイズもきいて、肝心の機織テクニクもクラクションしたり、組みあがってギンギンと出現する、といったような、ディスプレイをそのまゝ組み立ててという企画もあった。またそのインディには、1日の販売で1ギンギンと納める形で、新たな技術でつんで、日本をリファインして、高品質の希望も多岐にわたった。そ

な中では機動戦士ガンダム、第08MS小隊のロ
ン・シー・クワイとついでに44スケール、ノボリ
タムの完成度の高さが目立つ。このクワイ
タムは、スタイルの良さ、可動域の広さ、そ
して作りやすさ兼ね備えていたのだ。

こういった状況で踏まえ、コレクション性の高さ、購入のしやすさなどを考慮しながら、現行の技術で1/14スケールの新たなガンフラのスタンタートを再みたぞうという企画が動き始めた。

そして、日本のクオリティーをもって「宇宙世紀」のMをリメイクするといふスタン・スガが決まり、カトキハ、氏からプロデュースの「ゲレン」を担当すること、日仏（＝ノリ）はスタートした。

第1弾商品は、カンキヤノ、キャンリースには、
1段機以外のさまざまなMも商品化していこう
という狙いがある。たまたまである。さらにスタート
と初のHから、このコンセプトとして、制訂(名)メ
ンポーネンクできる。メモリアルアクション
というキミノの搭載が決められていて、このカ
ンキヤノは、両手足を地面にこいて座墊する
を再現可能としたのだ。

好みに見え、その後は 機動戦士ガンダム、機動戦士Zガンダム、機動戦士ガンダムZZの機体を、次々と合体していく。

夢の大型アイテムの発売

せしむるは、日刊「カンタム」の「新書」に
 併せて、日刊「カンタム」の「新書」に
 カンタムの新刊は「カンタム」に

さらに、キト化不可能とされていた半長1mlにもなるデントロビウムや、全高28cmの巨大変形サイフカンタムなど、かつては夢でしかかった大型機種の商品化は、今こそ実現させる。

その後も本「ローヌ」は、小々々々で変形を再現することによる「フロー・フォンの副れ」を避けるため、バ・ノロと特文により変形機構を再現した。1.「ローカバ」の合わせ口の処理をせすとも、完成品を象徴するような設計を痛く感むとしたから、直往を促してきた。

リーヌ」開始から10年以上が経過し、今や最もを超える商品「ファン」の数を誇り、機軸戦「カンパニ」SFEDと「機軸戦」リタム、OOといた、19世紀以外の商品の「キ」を「ファン」するに「ファン」にも影響を与え続けるまで成長した「カンパニ」は、往年の「カンパニ」のみなさんへ企画と初回1冊号を超え、新規「サ」の入門モデルとしても支持される、「カンパニ」の「ファン」の「ファン」を「ファン」した



Vガンタムのパワーアップ版がユーザーライクにリリース!

大好評だったMG・Vガンタムのパワーアップ版といえるキットが、ついに発売。単なるバージョン違いに終わらないキット構成に注目せよ!

MG 1/100

Vダッシュガンダム Ver.Ka

価格 6090円(税込)

発売元 バンダイ 好評発売中



MG 1/100

コア・ブースター Ver.Ka

価格 2310円(税込)

発売元 バンダイ 好評発売中



り、Vガンダムだけでなく、コア・ブースター単体のキットで、Vガンダムを構成したのも発売される。

カットキナメ氏がプロデュースするMG Ver.Kaに、自身がアニメ編でのデザインを担当したVガンダムが加わったのは、2009年の12月。久々のVガンタムの1/100ということで話題を集めた。

そしてこのたび、Vガンダムがパワーアップした姿であるVダッシュガンダム。MGのラインナップに加わることになった。とは、VダッシュガンダムはVガンタムのコア・ブースターがセーバーハンダックを追加したコア・ブースターへと変更された仕様で、残りのトップ・リムとボトム・リムに大きな変更はない。そう考えると、コア・ブースターのみリリースで欲しいと思うユーザーがいてもおかしくない。

そんな思いにしっかりと応えるように、コア・ブースター単体のみとコア・ブースター・トップ・リムとボトム・リムがセットになったVダッシュガンタムの2種類のキットが、同時にリリースされたのだ。

さらに、甲斐なりのアップキットに替わって、いよいよポイント・アニメに登場したVガンタムのオプション武装各々が、新規パーツとして追加されている。ヒート・スマートガン、カトリックガン、ビーム・キャノンといった武器に加え、Vガンダムへ使用していたビーム・キャノンなども付属。その豊富な武装パーツは、機動戦士Vガンダム 放送当時のガンプラ用に発売されていた「武器セット」を思わせる内容になっているのも嬉しい。

またそれらの武装は、機体各部のハード・ポイントに装着してさまざまな装備状態を再現できるようにしており、まさにVガンタムのメカニカルな設定を、より深く再現して楽しめるキットとなっているのだ。

ラインナップも充実し、ますます広がりを見せるガンプラ。日々進化を続けるガンプラから、もう1歩を離すことができる。



入門に最適なガンプラ2体セットが登場!

ガンプラ30周年に合わせ、HGUCのガンダムとザクがセットとなった入門キットが発売。ガンプラを未経験なユーザーが、最初に向かうには最適なセットであり、ガンプラ初心者に向けて、作り方を詳しく説明した冊子も添入されている。機動2世代で、一輪に組み立てを楽しんでみるのもいいだろう。

HGUC 1/144 ガンプラ スターセット

価格 2100円(税込) 発売元 バンダイ 好評発売中



カラーを再現した胸のメカへと変更されている。

川口名人

ゆとことんプラモ主眼 第4回 ガンプラ各シリーズとの付き合い方

ガンプラにはPG、MG、HGといった様々なシリーズがある。

HGは比較的低価格で多くの機種を揃える。コレクションやディスプレイなどのシーンの表現に適したもので、MGはMS単体の作りやすさという点で、PGではモチーフとなるMSの魅力を最大限に感じてもらうという趣意をもって商品開発を行っているのだが、それぞれが10年を超えるシリーズとなり、商品の仕様の進化に伴いコンセプトも明確に分化し出さなくなってきたという側面がある。PG=大、MG=中、HG=小という感覚で選んでいる方も多かった。ガンプラコンテストなどを見ると、最近ではスケールという偏見をあまり意識せずに作られている

方も少なくない。

かつての時期には「もし本当に18m級のMSが実在したら」という発想を起点に、1/144、1/100といったスケールに人間のサイズはこれくらい、だからディテールの追加長所とこの程度、マーキングの雰囲気はこんな感じ、といった製作スタイルが主流であり、それを「リアル」としていった。

10年ほど前のIPSWAN 人気に代表されるフィギュアブーム以降、キャラクター立役者すべてが「フィギュア」と呼ばれる時期があり、ガンプラに関してはスケール的なリアルとは異なるファルムのリアル、造形としてのリアルという価値観が確立に定着してきた。そんな中でガ

ンプラの各シリーズは、嗜好の多様化に広がる選択肢として機能するのではないだろうか。ファルムのリアルさを求めるのであれば、メカ的な表現を前面に立てたMGやPGよりも、HGのほうがアレンジしやすいかもれない。一方、スケール的なリアルを目指すのなら、MGやPGのほうが向いているのかも。自分が目指す完成形を表現する上で、どのシリーズを用いるのが適しているか、という点を意識してみると、ガンプラとの付き合い方に広がりが見られるのではないだろうか。ガンプラ30周年に、新たにスタートしたRGシリーズ——真面目に手に取った方は、RGガンタムをどのように楽しむか、思いを巡らせてほしい。

今月のおまけにり

作品

RG 1/144

RX-78-2 ガンダム

1/144ガンダム

をイメージし

て金箔に塗

る。金箔は、マ

ンダムの後に

グロス仕上げ

を行った。

川口名人

PROFILE

メカニクス

建築家

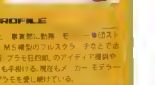
モ

造設計

などでも活

用。ガンダム、プラモ、模型、アニメ、マンガ、MSVの企画などにも携わる。関度も、ガンダム、ガン

両方の立場からプラモを楽しんでいる。



・川口名人

ガンブラ30thプレミアムモデル ガンプラケータイ

945SH G Ver.GP30th

EFSF PROTOTYPE CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT

RX-78-2 GUNDAM

SoftBank

MODEL NUMBER RX-78 2
PILOT:AMURO RAY
HEIGHT:18.0m
WEIGHT 43.4t
ARMAMENTS:BEAM RIFLE
BEAM SABER / SHIELD



予約受付中

ガンブラ
ケータイ
945SH G
Ver.GP30th

2010年9月中旬発売予定。発売前に希望したい人は、キャラネと2010会場内のソフトバンクモバイルブースにて



945SH G
RX-78-2 GUNDAM



*1 付属の専用シール(プレミアムデカール)でカスタマイズしたイメージです。 *2 付属の専用電池パックカバーを装着したイメージです。 *写真は、開発中のものです。予告なく変更となる場合がございます

詳しい価格情報はPCまたは、携帯サイトで!
<http://mb.softbank.jp/mb/special/945SHG/>

携帯サイトはコチラ



※通信料がかかります。
©2010 SoftBank



モバイル・サイクル・ネットワーク

OFFICIAL FILE MAGAZINE

GUNDAM
MS HISTORICAL Vol.4

雑誌 60252-57

ISBN978-4-06-370081-7

C9472 ¥657E (0)

定価: 本体657円(税別)

講談社

